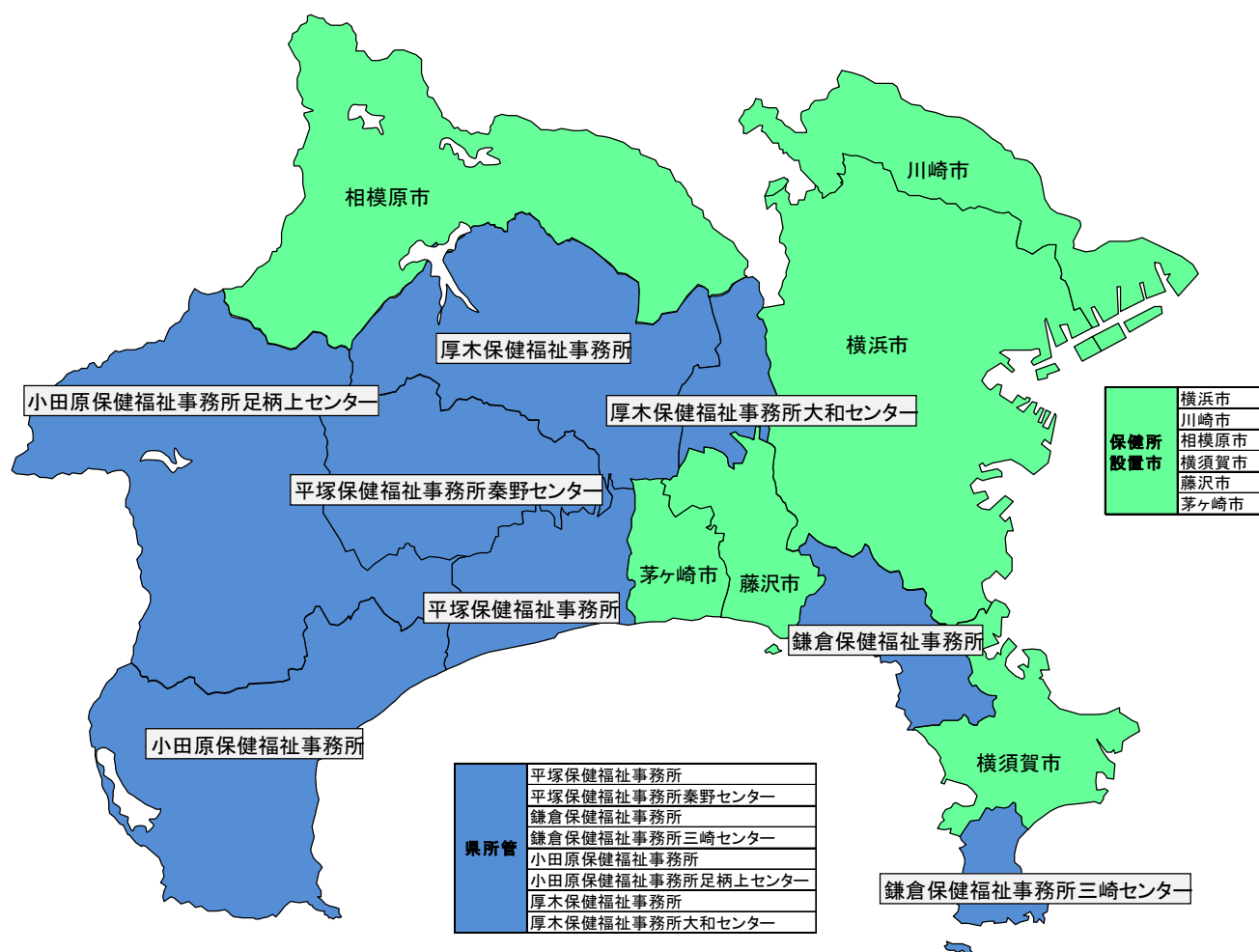


2024 年

神奈川県感染症

PART I 2024 年神奈川県感染症発生動向調査の概要



はじめに

新型コロナウイルス感染症（coronavirus disease 2019: COVID-19）のパンデミックから5年が経過し、人の移動はパンデミック前に戻りつつある。2025年には大阪・関西万博（EXP02025）、2027年には国際園芸博覧会（GREEN-EXP02027）が開催されることになっており、ますます海外との人の往来は盛んになることが予想される。少なくとも感染症に関しては、ボーダーレスの時代である。日本では患者数が少ない疾患であっても、海外で流行していれば容易に国内に持ち込まれ、感受性者の間で感染が拡大する。予防接種で予防可能な疾患については、平時からワクチンによる予防をお願いしたい。

2024年の神奈川県感染症発生動向の特徴として、全数把握疾患では、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒、百日咳の増加がある。定点把握疾患では、夏季に手足口病が急増し、冬季にインフルエンザが急増した。2024年第52週にはインフルエンザの定点当たり報告数が全県で66.30となり、1999年の感染症法改正以降で最多となった。伝染性紅斑も2019年以来の流行となった。

神奈川県衛生研究所は、全国に84箇所存在する地方衛生研究所の一つとして、また、神奈川県の基幹感染症情報センターとして、本庁や保健福祉事務所・センターを始め、政令指定都市、保健所設置市を含めた県内33市町村の担当課や保健所、衛生研究所、医師会、病院協会、関係機関の方々との連携を強化して、情報発信に取り組んでいる。

『神奈川県の感染症』は、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市、茅ヶ崎市及び神奈川県保健福祉事務所（センター）をはじめとする本県関係機関と神奈川県衛生研究所が協力して収集した情報をまとめたPARTⅠ（神奈川県感染症発生動向調査の概要）と、各地域における感染症発生状況の概要を記載したPARTⅡに分けて収録しているので、関係の皆様方の感染症対策の参考にしていただければ幸甚である。

『神奈川県の感染症』の作成にあたり、関係機関の方々から、貴重な資料・情報をご提供いただきましたことに感謝したい。これらの情報が県民の皆様にも正しく伝わり、感染症対策の一助となることを期待する。

2025年（令和7年）3月

神奈川県衛生研究所長 多屋 馨子

目 次

< PART I > 2024 年 神 奈 川 県 感 染 症 発 生 動 向 調 査 の 概 要

I 感染症発生動向調査

1 全数把握対象疾患	3
2 定点把握対象疾患	
(1) 定点	6
(2) 週報対象疾患（神奈川県全県）	7
(3) 月報対象疾患（神奈川県全県）	17
3 トピックス	
(1) マイコプラズマ肺炎について	21
(2) 梅毒について	23

【資 料】

全数把握対象疾患 保健所別累積報告数	26
--------------------------	----

< PART I > 2024 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

I 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業では、1998 年 9 月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が成立し、1999 年 4 月から施行されたことに伴い、感染症の予防とまん延防止の施策を講じるため、感染症の情報を医療機関から収集し、その内容の分析、公表を行っている。

1 全数把握対象疾患

2024 年に県内で報告のあった全数把握対象疾患は、3,310 件と前年より 431 件増加した。

類別では、二類感染症 987 件、三類感染症 234 件、四類感染症 252 件、五類感染症 1,837 件であった。

全数把握対象疾患の年次推移は、図 1 全数把握対象疾患の推移のとおり。保健所別の報告数は、【資料】「全数把握疾患保健所別累積報告数」を参照。

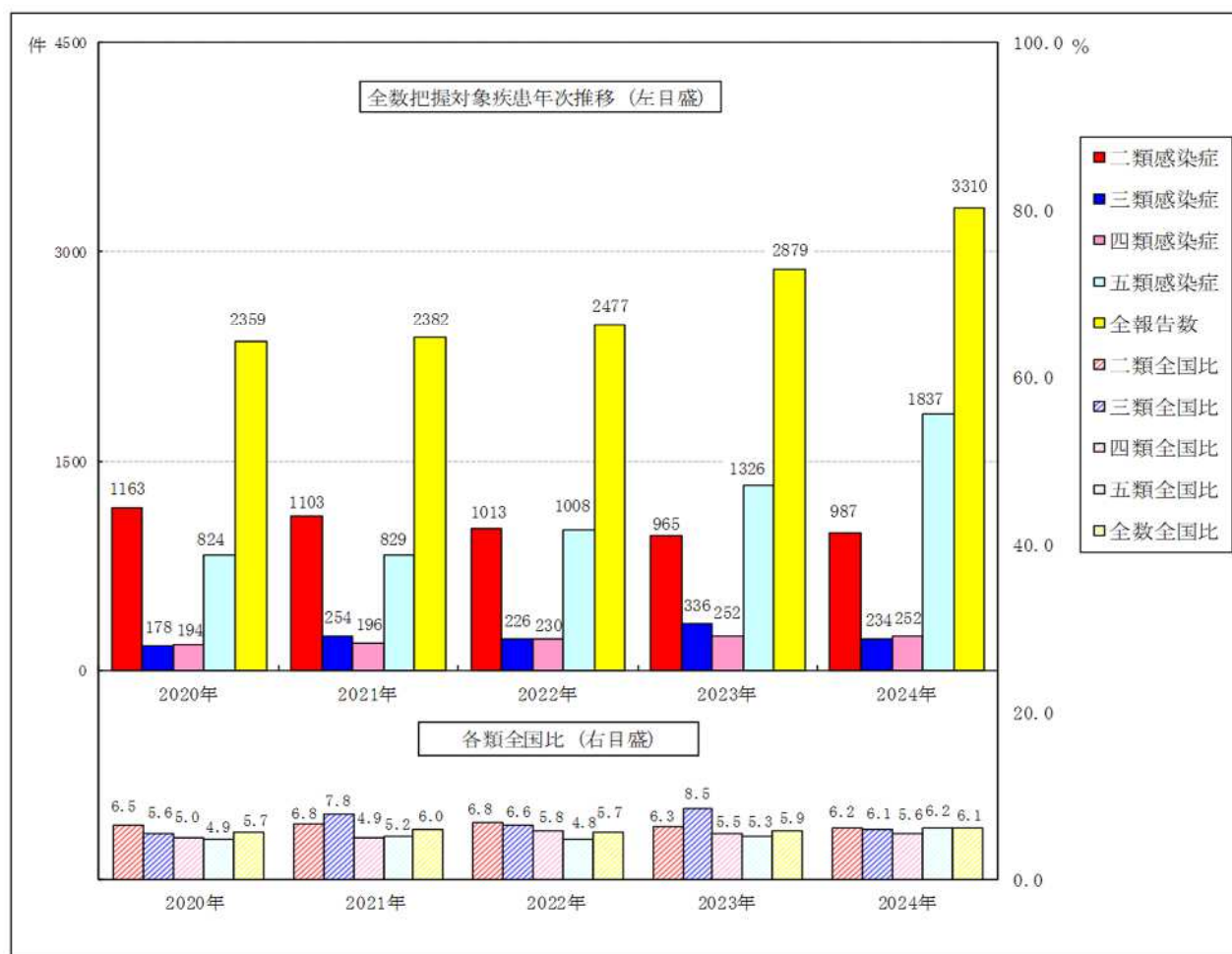


図 1 全数把握対象疾患の推移

《一類感染症》報告はなかった。

《二類感染症》届出は結核のみで、前年 965 件から 987 件と 22 件増加した。

《三類感染症》3疾患の報告があり、報告数は234件であった。細菌性赤痢は、前年4件から13件と9件増加した。腸管出血性大腸菌感染症は、前年327件から216件と111件減少した。

表1 三類感染症報告数

(件)

疾患名	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年								
	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	(横 浜市)	(川 崎市)	(相 模原市)	(横 須賀市)	(藤 沢市)	(茅ヶ 崎市)	(左を除く 神奈川 県)	全 国
コレラ													2
細菌性赤痢	3			4	13	8	2					3	74
腸管出血性大腸菌感染症	173	254	224	327	216	102	48	1	9	15	2	39	3,742
腸チフス	1		1	3	5	2	1		1			1	42
パラチフス	1		1	2									7
合 計	178	254	226	336	234	112	51	1	10	15	2	43	3,867

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※疑似症・無症状病原体保有者を含む

《四類感染症》9疾患の報告があり、報告数は252件であった。E型肝炎は前年64件から58件に減少、A型肝炎は前年5件から8件に増加、エムボックスは前年5件から2件に減少した。また、前年は報告のなかったボツリヌス症が、2024年は2件報告された。レジオネラ症は、前年144件から152件に増加した。

表2 四類感染症報告数

(件)

疾患名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年								全国
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(茅ヶ崎市)	(神奈川県を除く)	
E型肝炎	39	62	67	64	58	22	10	5	12			9	526
A型肝炎	7	4	8	5	8	4				1	1	2	137
エキノコックス症	1	1											17
エムボックス			1	5	2	2							19
オウム病		1											8
重症熱性血小板減少症候群				1									120
つつが虫病	29	17	26	12	14	2	1	1				10	349
デング熱	1	2	7	17	13	1	6	1		2		3	232
日本紅斑熱			3	1	2			1				1	505
ボツリヌス症		1			2		2						7
マラリア	3		1	2	1	1							45
ライム病				1									29
レジオネラ症	113	108	116	144	152	48	27	28	10	11	5	23	2,419
レプトスピラ症	1		1										53
合 計	194	196	230	252	252	80	46	36	22	14	6	48	4,466

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※疑似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も含む

※令和5年5月26日よりサル痘はエムボックスに名称変更となった

《五類感染症》18 疾患の報告があり、報告数は 1,837 件であった。最も報告の多かった疾患は梅毒で、前年 662 件から 792 件と 130 件増加した。劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、報告数が前年 66 件から 129 件と約 2 倍に増加し、死亡例も前年 24 件から 32 件に増加した（報告数、死亡例とも過去最多）。また、前年は報告のなかった侵襲性髄膜炎菌感染症が、2024 年は 3 件報告された。百日咳も、前年 48 件から 264 件と大きく増加した。

表 3 五類感染症報告数

(件)

疾患名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年								全国
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(茅ヶ崎市)	(神奈川県を除く)	
アメーバ赤痢	54	58	40	46	42	14	11	3	3	1	1	9	514
ウイルス性肝炎	17	17	20	16	13	3	5	2			1	2	226
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	122	123	126	129	171	53	64	12	14	10		18	2,277
急性弛緩性麻痺	2	1	4	3	5	2	2		1				47
急性脳炎	32	17	27	41	30	12	15			2		1	609
クロイツフェルト・ヤコブ病	4	7	12	7	8	3	3					2	169
劇症型溶血性レンサ球菌感染症*	49 (12)	40 (5)	57 (17)	66 (24)	129 (32)	42	21	6	8	11	1	40	1,888
後天性免疫不全症 候群	65	67	39	49	64	33	16	2	4	2	1	6	991
ジアルジア症	2	3		3									42
侵襲性インフルエンザ菌感染症	22	12	13	48	45	10	14		2	6	1	12	644
侵襲性髄膜炎菌感染症					3	1	1					1	66
侵襲性肺炎球菌感染症	104	91	84	137	214	81	41	11	17	16	4	44	2,530
水痘（入院例）	27	18	29	49	36	12	7	3	1	2	4	7	483
梅毒	222	336	523	662	792	350	166	37	28	36	16	159	14,663
播種性クリプトコックス症	5	12	8	11	9		2	2	1			4	189
破傷風	5	5	3	5	9	4	1	1		1		2	85
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	7	1	2	2	2	1	1						121
百日咳	75	20	17	48	264	96	122	10	4	12	6	14	4,054
風しん	9	1	1	2									7
麻疹	1		1	1									45
薬剤耐性アシネトバクター			2	1	1	1							6
合 計	824	829	1,008	1,326	1,837	718	492	89	83	99	35	321	29,656

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※疑似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も含む

※令和 5 年 5 月 26 日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症はカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症に名称変更になった

*劇症型溶血性レンサ球菌感染症の神奈川県報告数の（ ）は死亡例の件数

2 定点把握対象疾患

(1) 定点

定点把握対象疾患は、疾患により5種類に分類され、予め指定された医療機関（定点）から報告される。定点の数は人口に応じて決められており、神奈川県内の定点の状況は下表のとおりである。

（単位：医療機関数）

区 分	定点医療機関数				
	県域※	横浜市	川崎市	相模原市	計
インフルエンザ/ COVID-19 定点	129	153	61	38	381
小児科定点	76	94	37	30	237
眼科定点	17	22	9	4	52
STD（性感染症）定点	24	29	12	5	70
基幹定点	5	4	2	1	12

※横須賀市・藤沢市・茅ヶ崎市の定点医療機関数を含む

【2024年4月1日現在】

○インフルエンザ/COVID-19 定点

対象疾患名： インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

新型コロナウイルス感染症（（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）

○小児科定点

対象疾患名： RS ウイルス感染症・咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・ヘルパンギーナ・流行性耳下腺炎

○眼科定点

対象疾患名： 急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

○基幹定点

対象疾患名：細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）・無菌性髄膜炎・マイコプラズマ肺炎・クラミジア肺炎（オウム病を除く）・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・薬剤耐性緑膿菌感染症

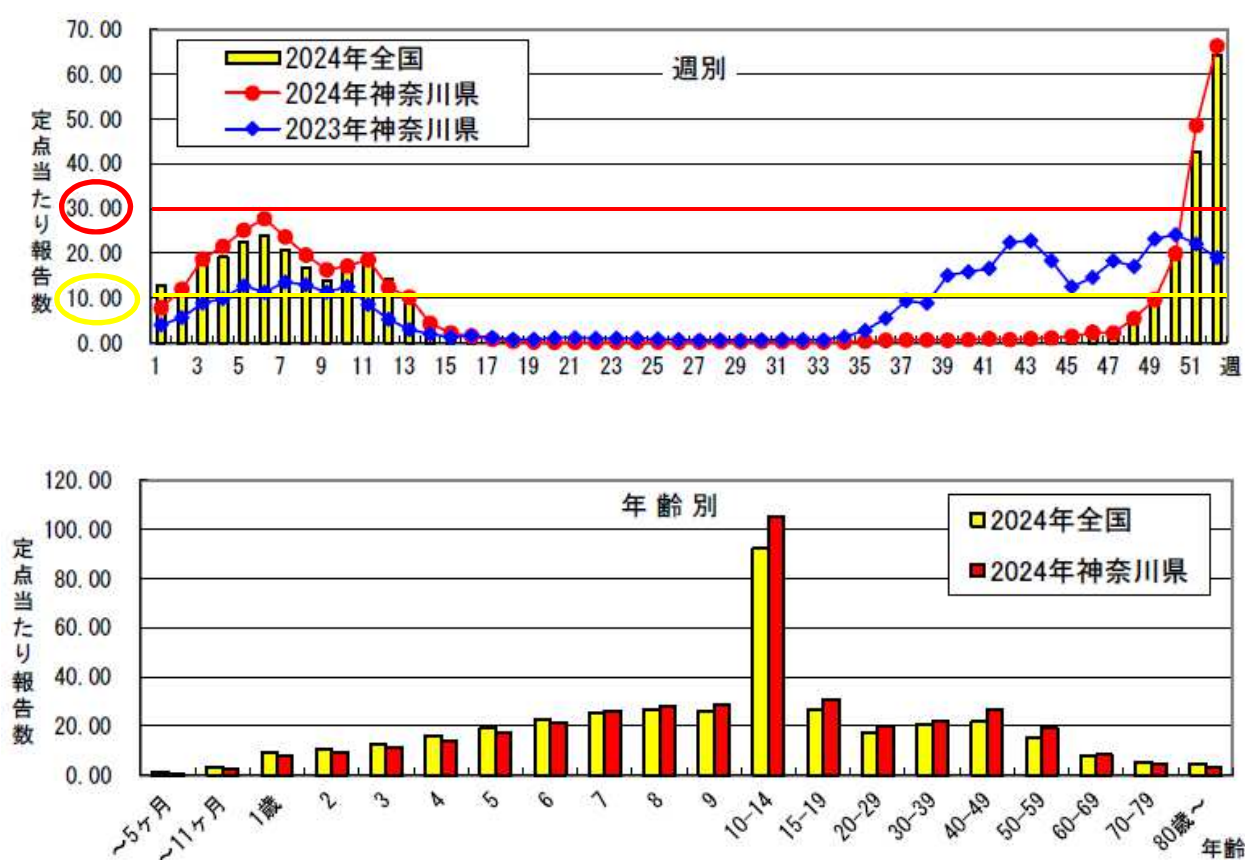
○STD定点

対象疾患名： 性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症

(2) 週報対象疾患（神奈川県全県） ＊注意報・警報基準のある疾患に○は警報レベル、○は注意報レベルを示す
インフルエンザ

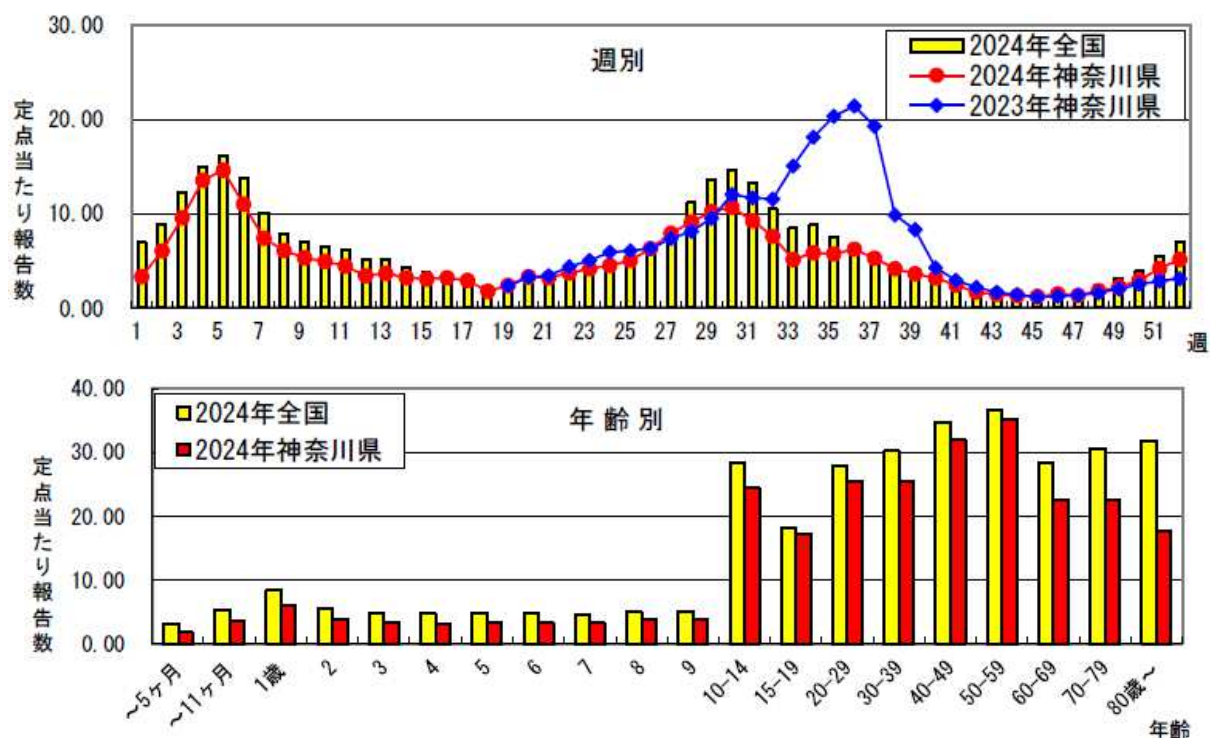
2023/2024 シーズンは、2023 年第 34 週に定点当たり報告数が 1 を上回り、流行開始となった。第 39 週には定点当たり報告数が 10 を超え注意報レベルとなった。第 50 週に定点当たり報告数が最多となり、その後減少した。2024 年に入り、定点当たり報告数は第 6 週が最多となり、第 14 週に 10 を下回った。

2024/2025 シーズンは、2024 年第 44 週に定点当たり報告数が 1 を上回り、流行開始となった。また、第 50 週に定点当たり報告数が 10 を超えて注意報レベルとなり、第 51 週には 30 を超えて警報レベルとなった。第 52 週には 2024 年最多の 66.30 となり、年末にかけての定点当たり報告数の増加が顕著であった。



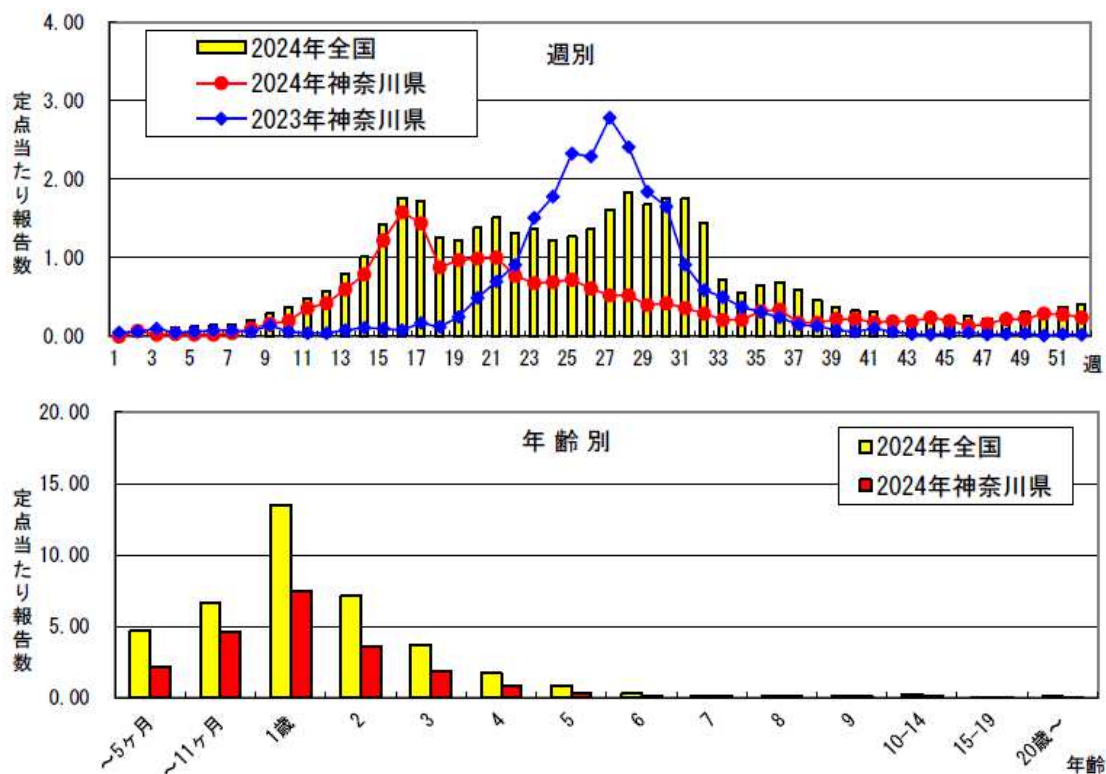
新型コロナウイルス感染症

2023年5月8日から5類に移行したため、2023年第19週から示している。2024年は第5週と第30週をピークとした増減がみられ、第48週ごろから年末にかけてはゆるやかな増加傾向であった。



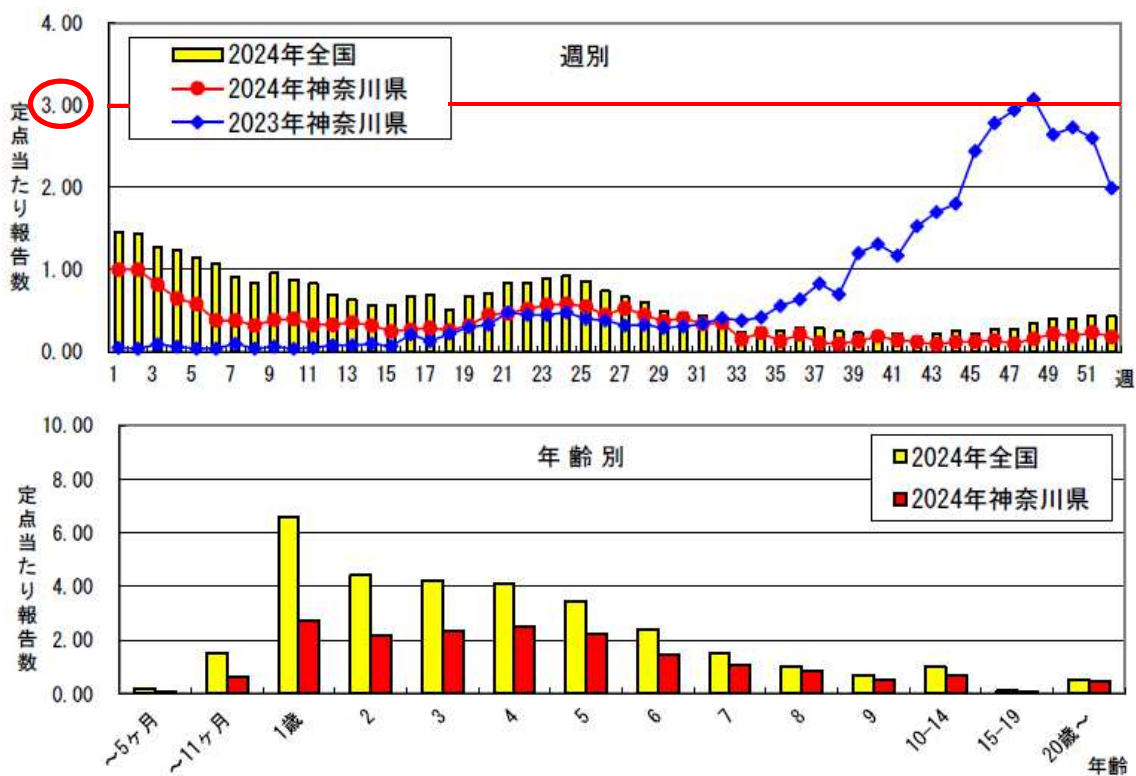
RS ウイルス感染症

2024年は第16週にかけて増加し、その後ゆるやかに減少しており、前年に比べて立ち上がりは早く、ピークは低かった。



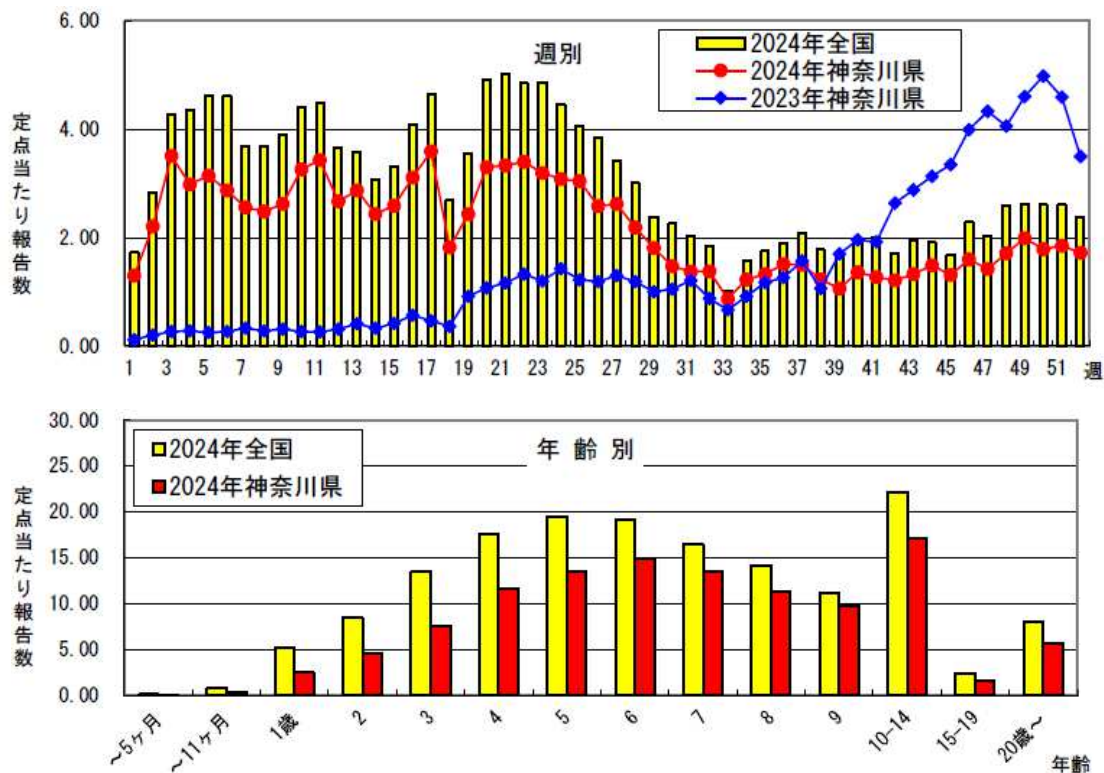
咽頭結膜熱

2024 年は大きな流行がみられず、第 3 週以降、定点当たり報告数は 1 未満で推移していた。



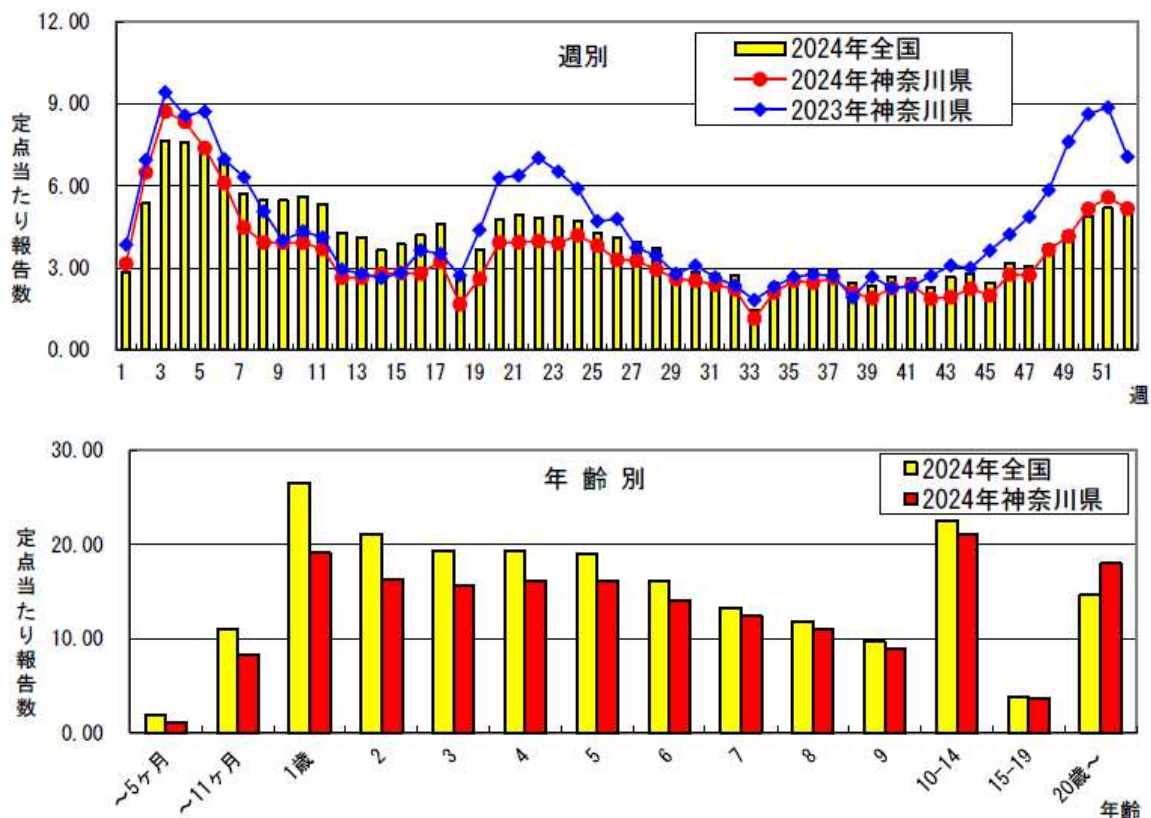
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024 年の定点当たり報告数は、前半は 3 前後で、後半は 1~2 で推移していた。



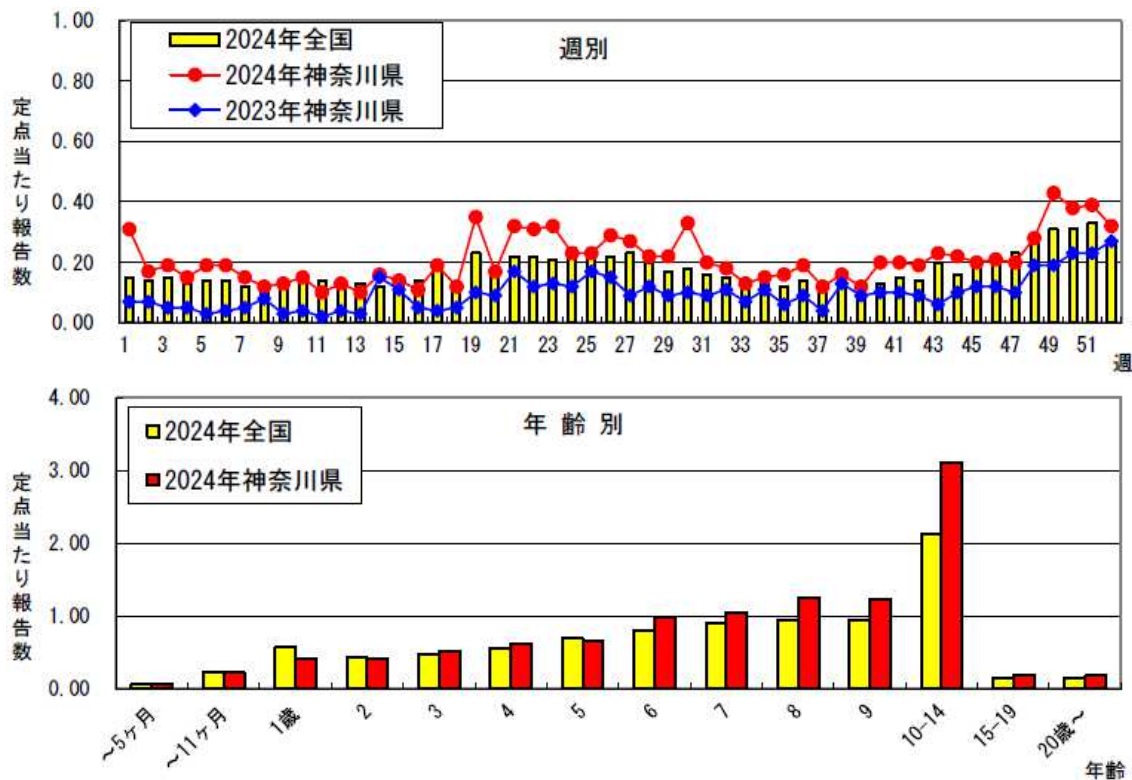
感染性胃腸炎

2024 年は前年と似た感染動向となっていたが、2024 年のほうがピークは低かった。



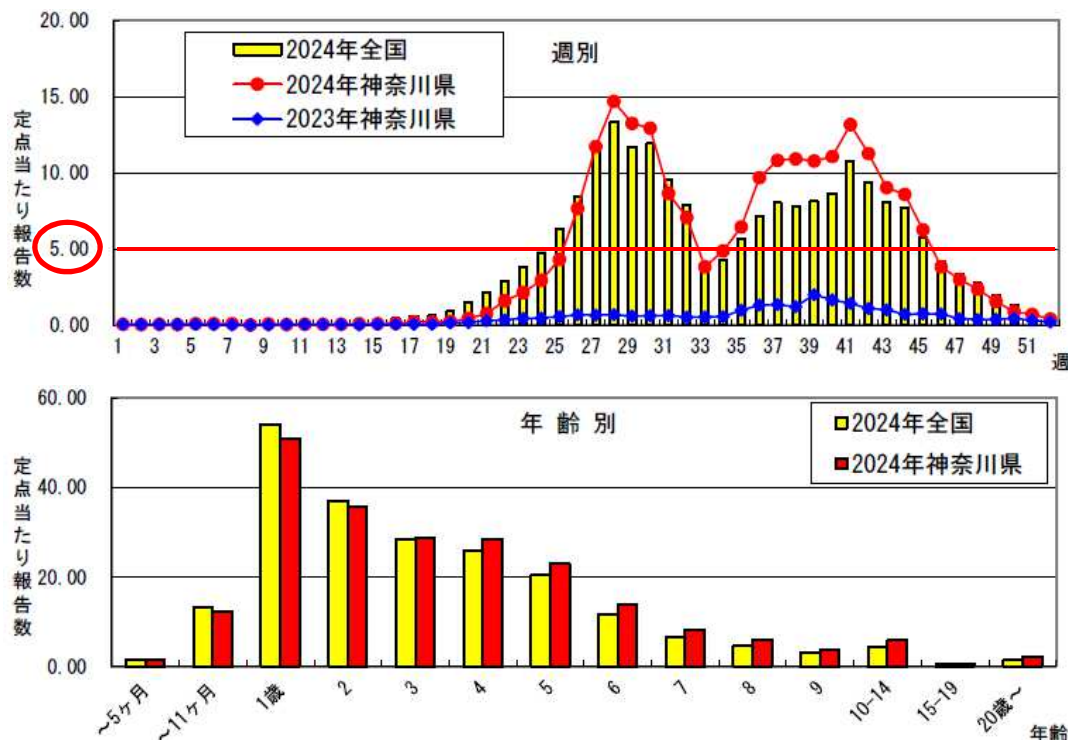
水痘

2024 年は年間を通じて定点当たり報告数が少なかったが、前年と比べると増えていた。



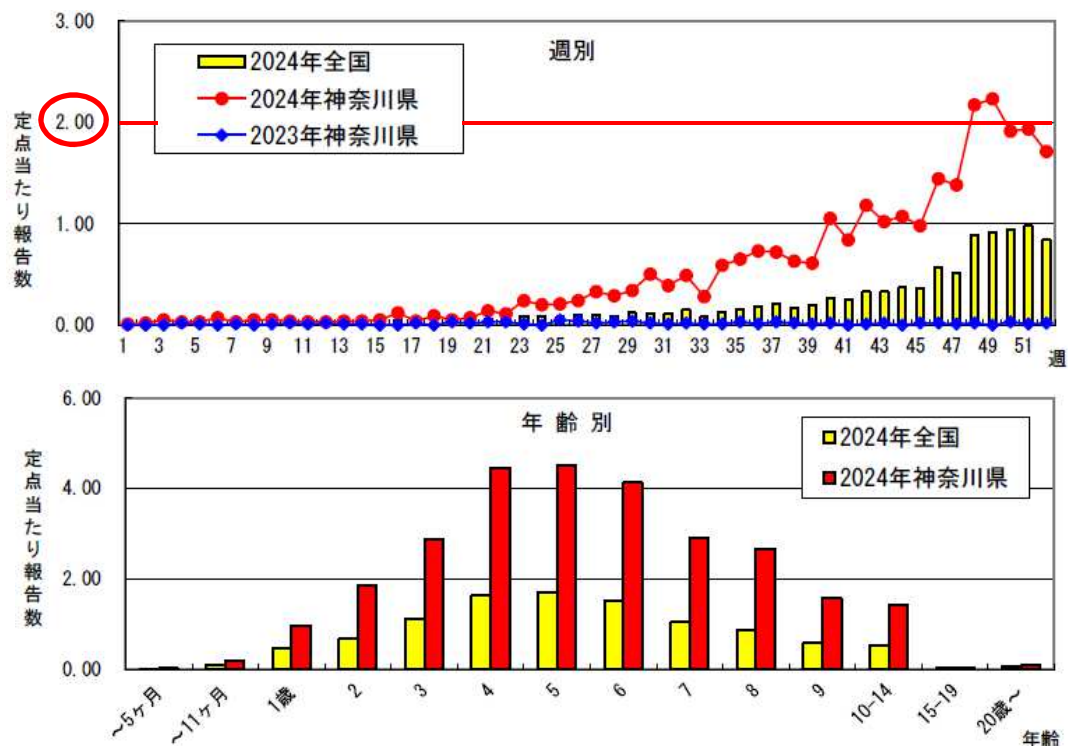
手足口病

2024 年は二峰性の大きな流行がみられた。第 26 週に警報レベル 5 を超えたあと、第 28 週をピークとして一度減少に転じたが、第 34 週から再び増加傾向となり、第 41 週に 2 つ目のピークがあった。



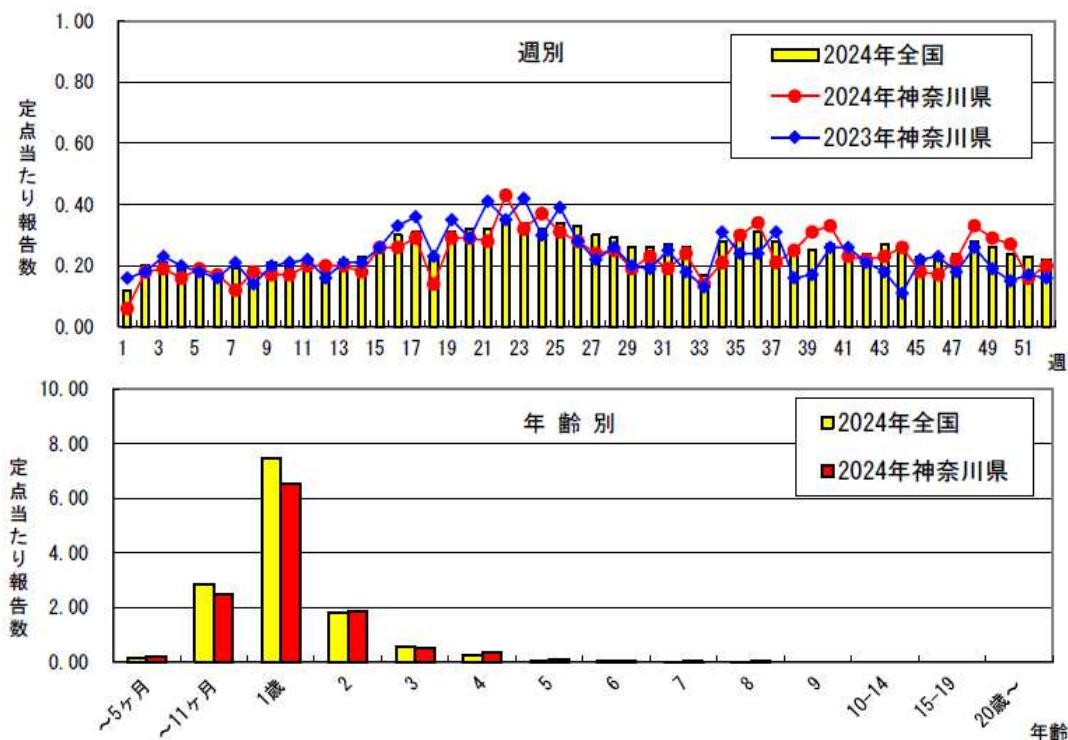
伝染性紅斑

2024 年は第 23 週ごろから増加傾向がみられ、第 48 週に定点当たり報告数が警報レベル 2 を超えた。第 49 週にピークとなったあとは、減少傾向であった。また、全国と比較して神奈川県で定点当たり報告数が多かった。



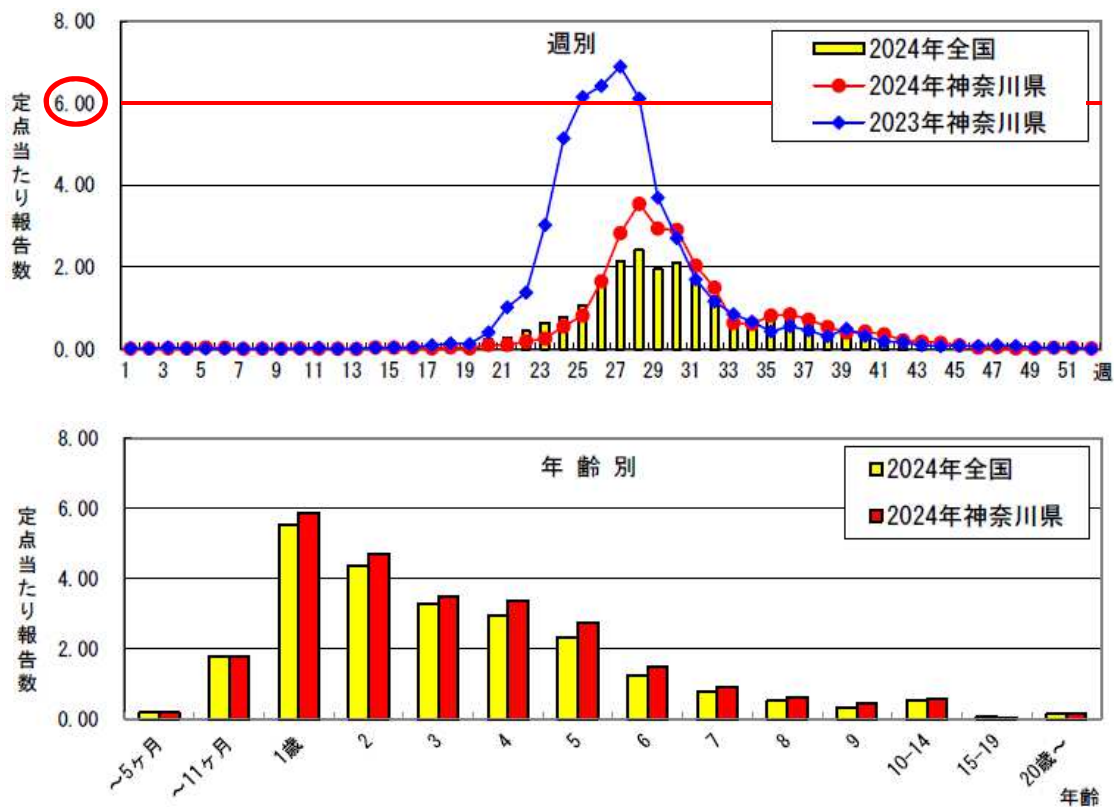
突発性発しん

2024 年の定点当たり報告数は、前年とほぼ変わりなかった。



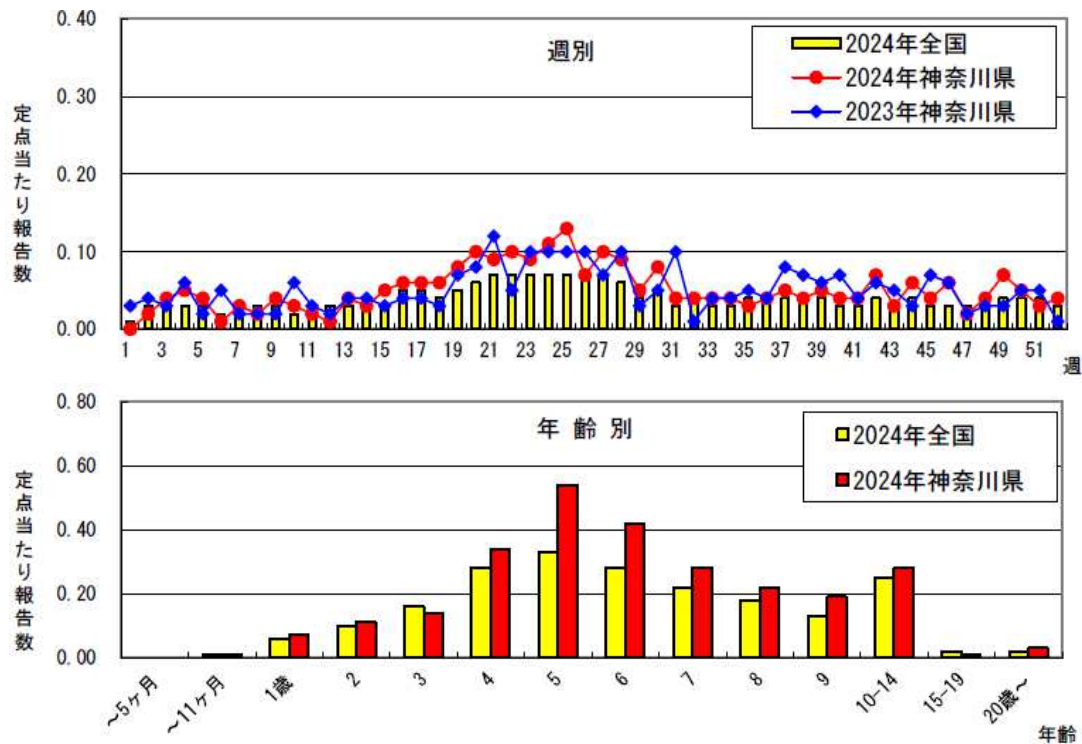
ヘルパンギーナ

2024 年は第 28 週をピークとする増加がみられたが、前年に比べて立ち上がりは遅く、ピークは低かった。



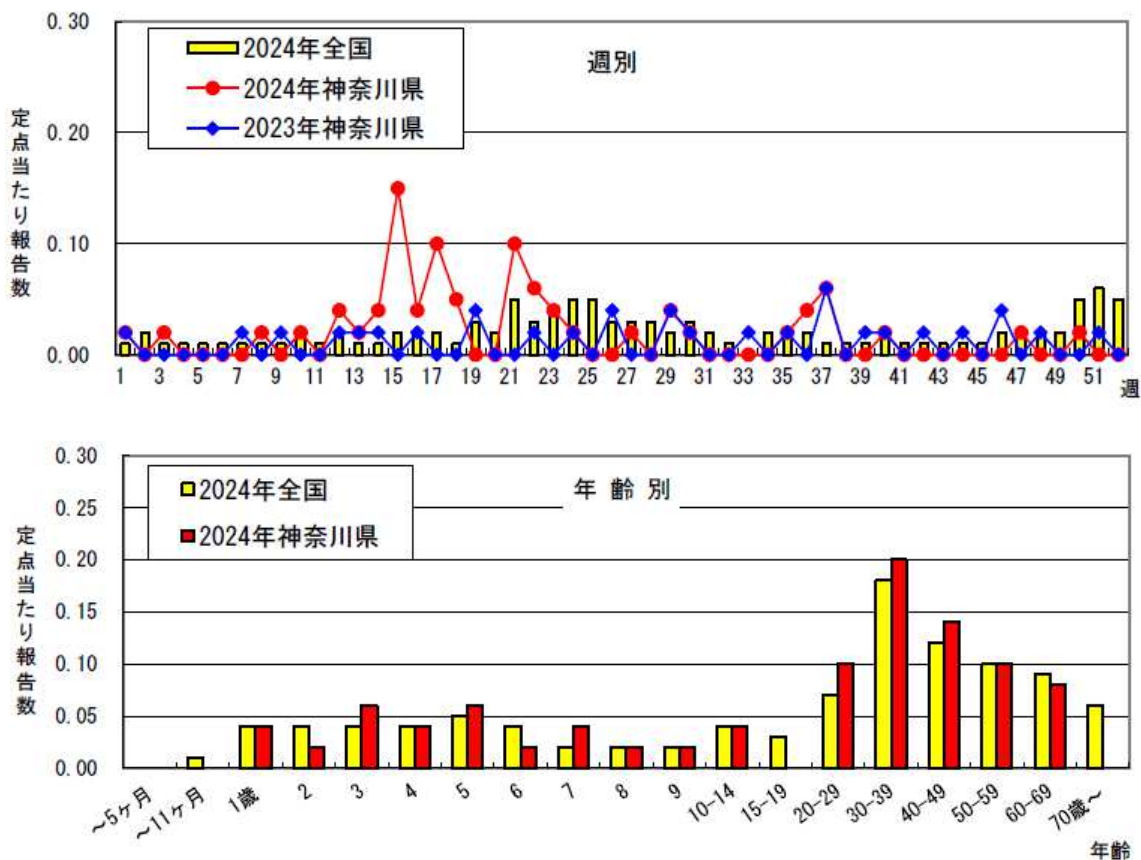
流行性耳下腺炎

2024 年の定点当たり報告数は、前年とほぼ変わりなかった。



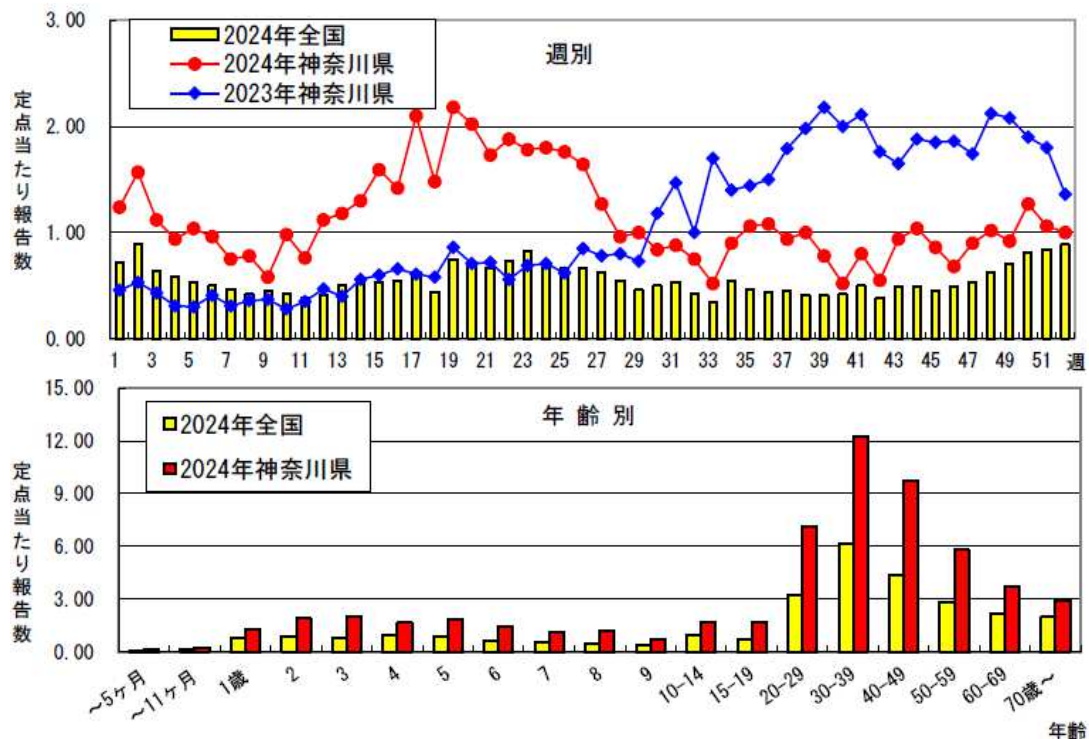
急性出血性結膜炎

2024 年は、第 15 週、第 17 週、第 21 週に定点当たり報告数が多かった。



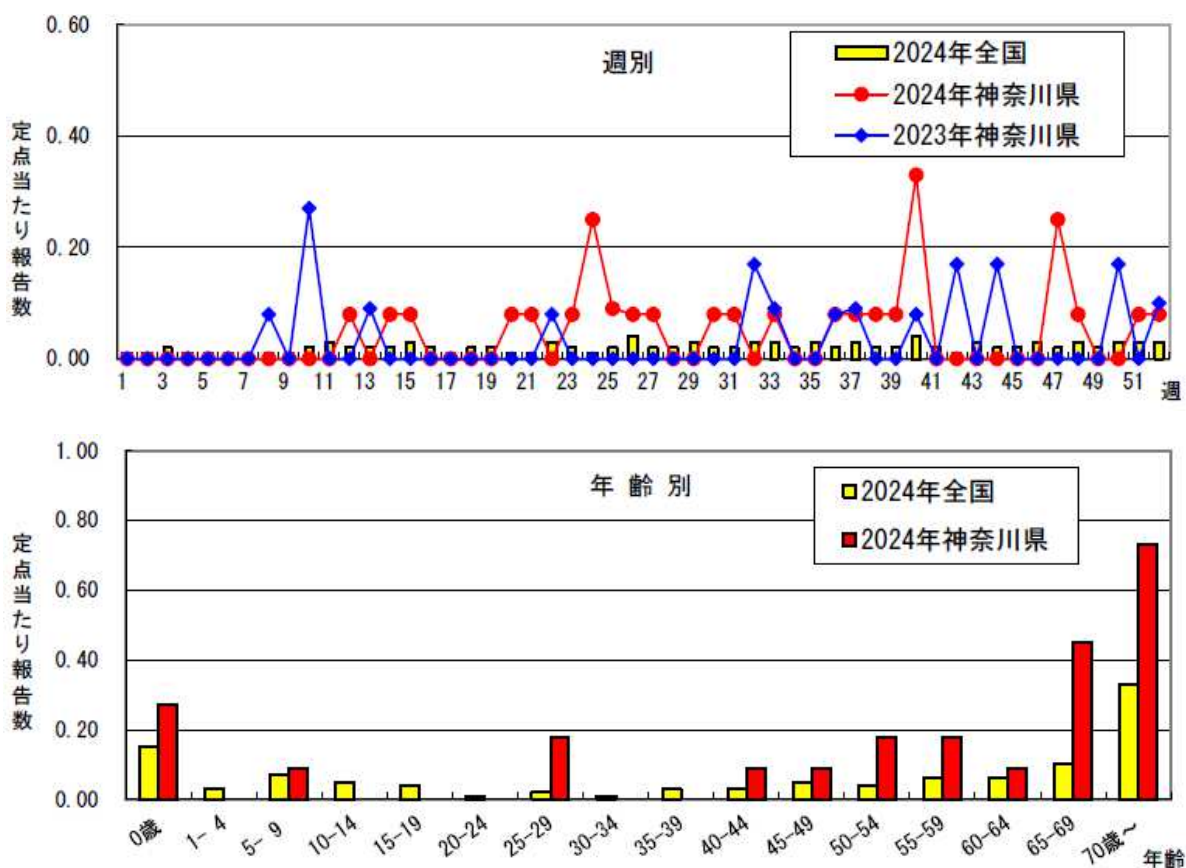
流行性角結膜炎

2024 年は、第 17 週から第 19 週をピークとし、全国と比較して高い水準で推移していた。



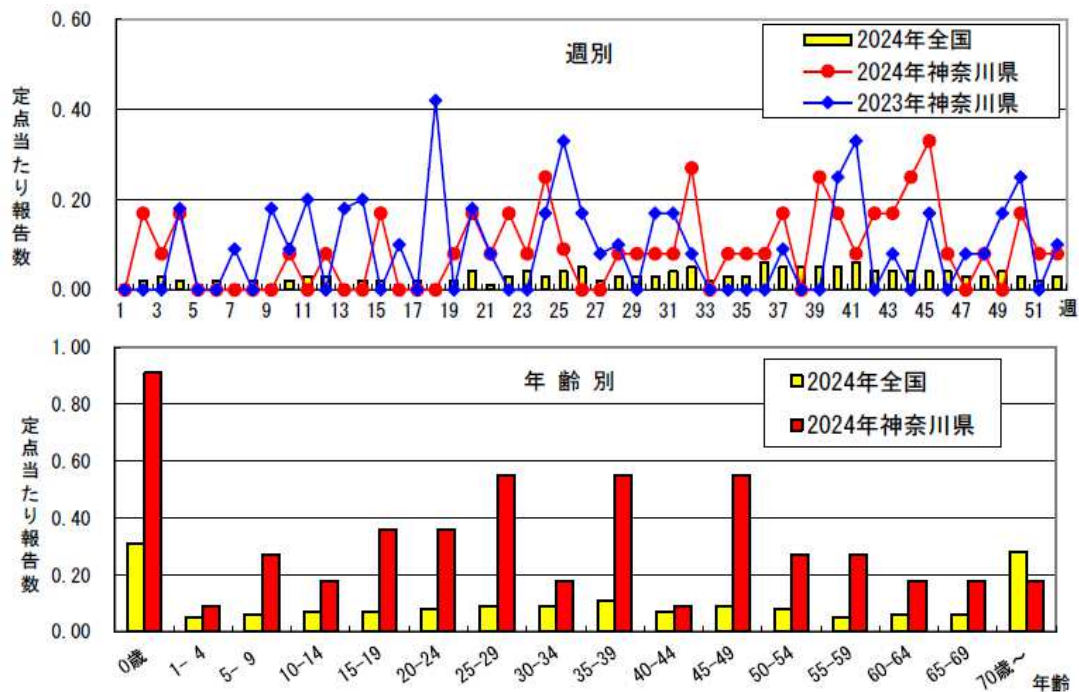
細菌性髄膜炎

2024 年は、前年に比べ定点当たり報告数が増加しており、全国と比較して高い水準で推移していた。



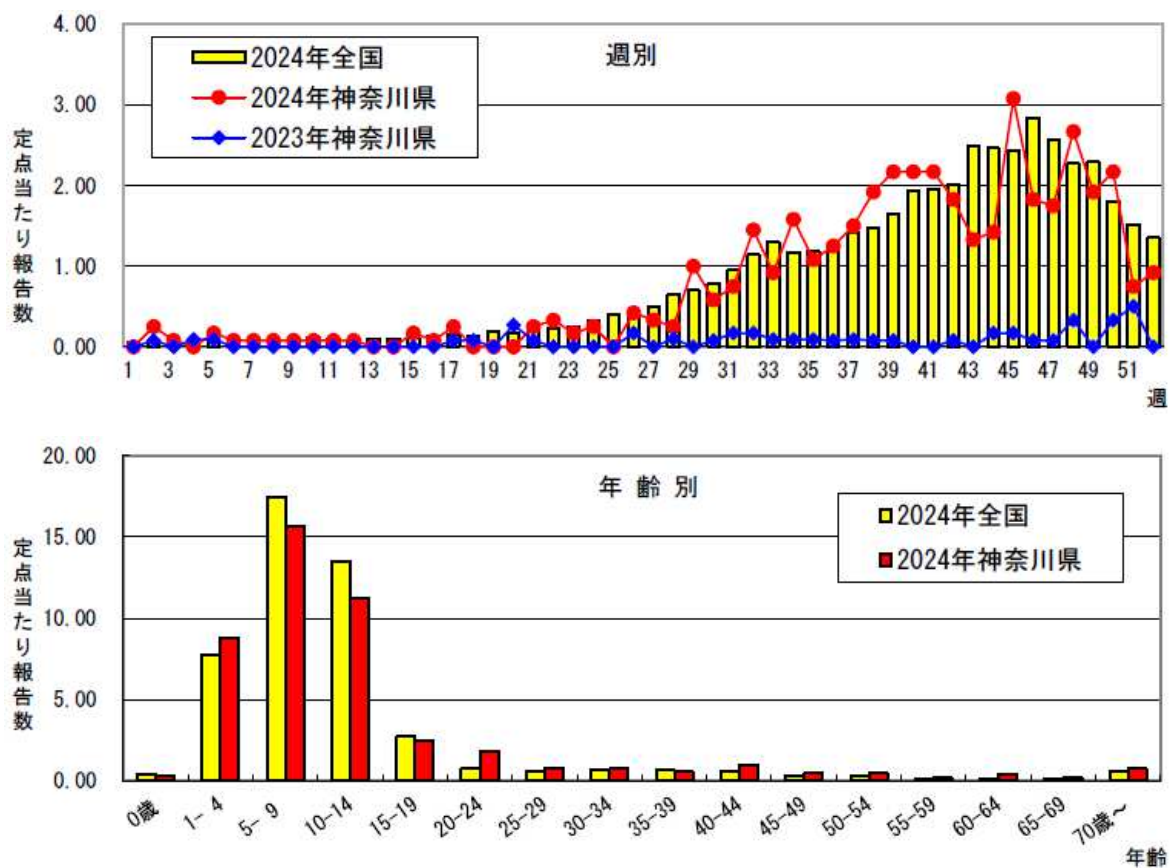
無菌性髄膜炎

2024 年は、全国と比較して神奈川県で定点当たり報告数が多く、年齢別では 0 歳で特に多かった。



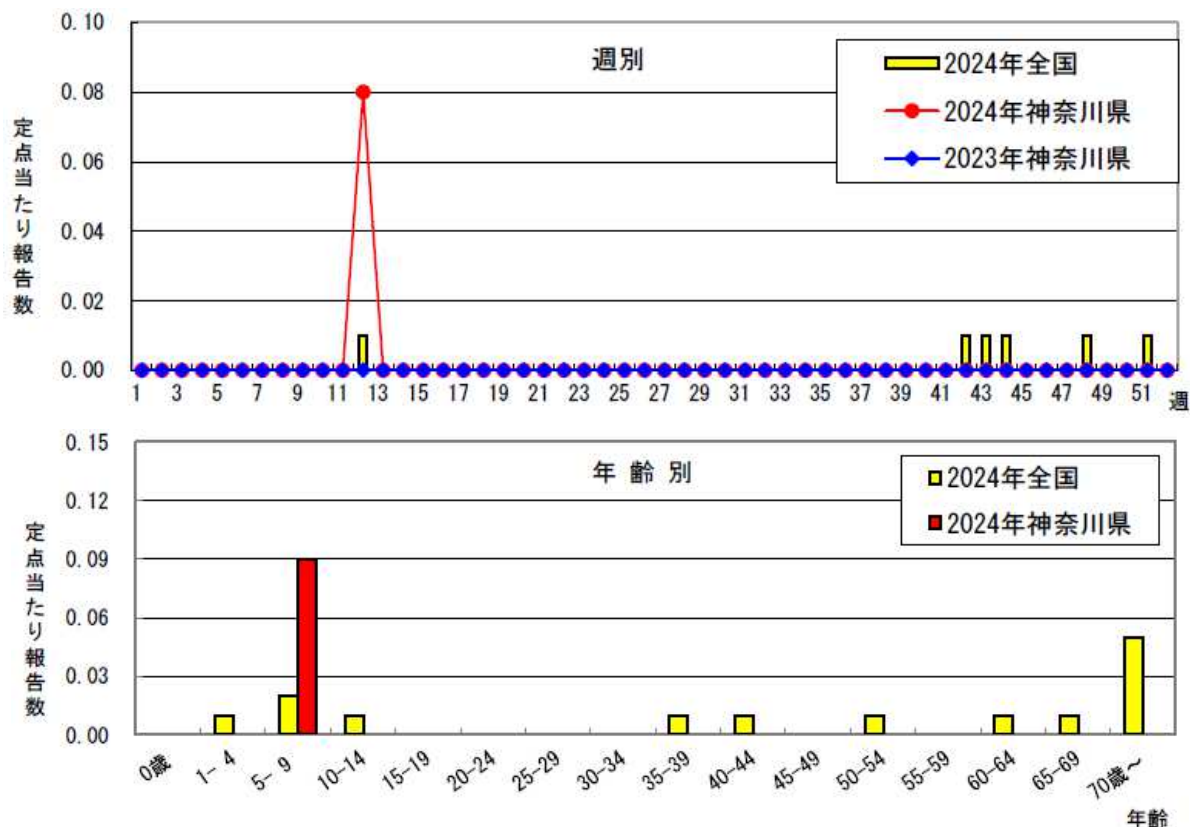
マイコプラズマ肺炎

2024 年は第 21 週ごろから定点当たり報告数が増加し始め、第 45 週をピークとする大きな流行がみられた。



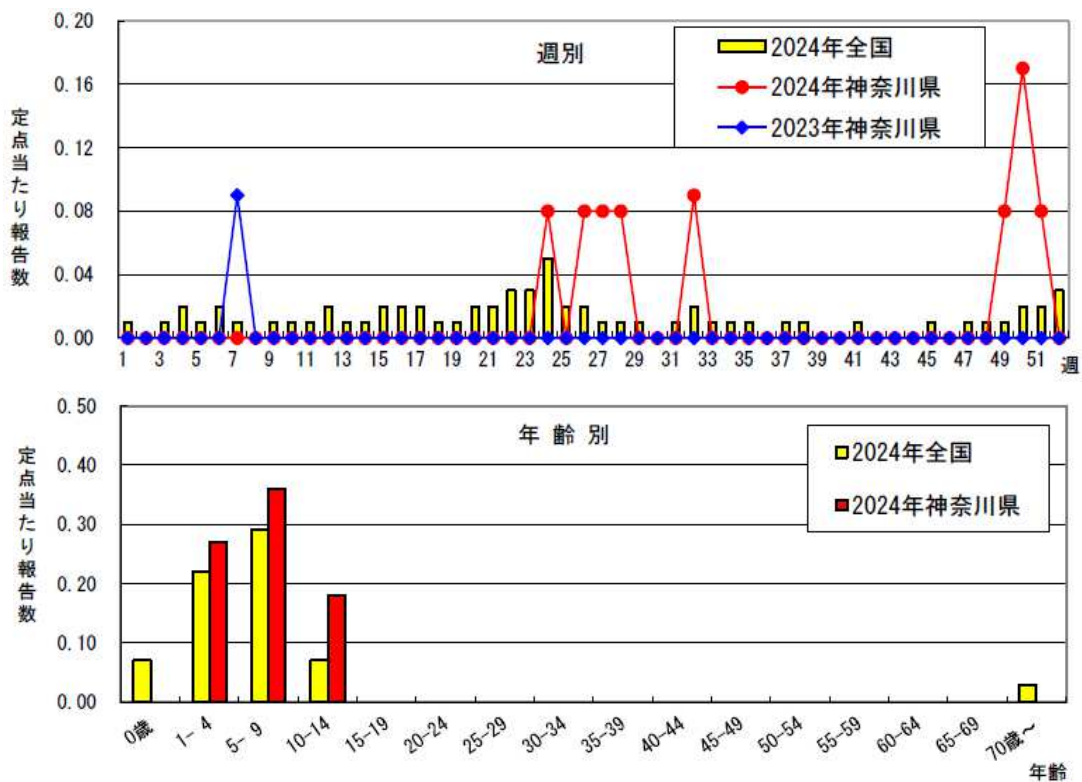
クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2024 年は第 12 週に 3 件の報告があった。



感染性胃腸炎（ロタウイルス）

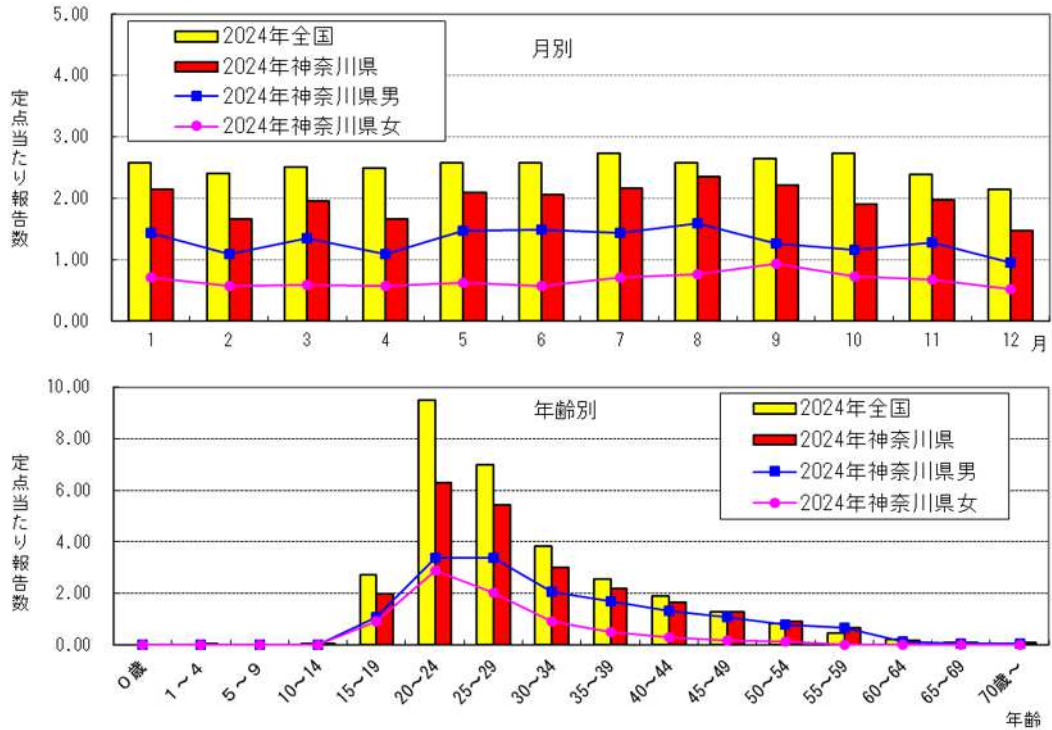
2024 年は、第 24 週から第 32 週にかけてと、第 49 週から第 51 週にかけて報告があった。



(3) 月報対象疾患（神奈川県全県）

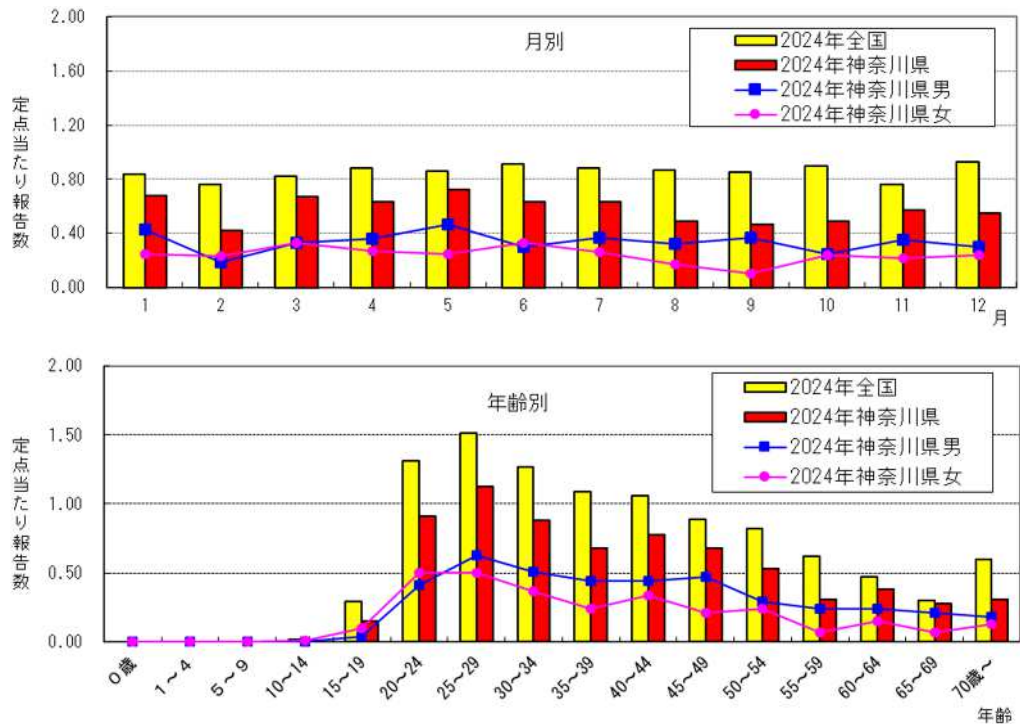
性器クラミジア感染症

全国と比較して神奈川県の定点当たり報告数は少なかった。年齢別では、男女ともに 20 歳代を中心に報告がみられた。



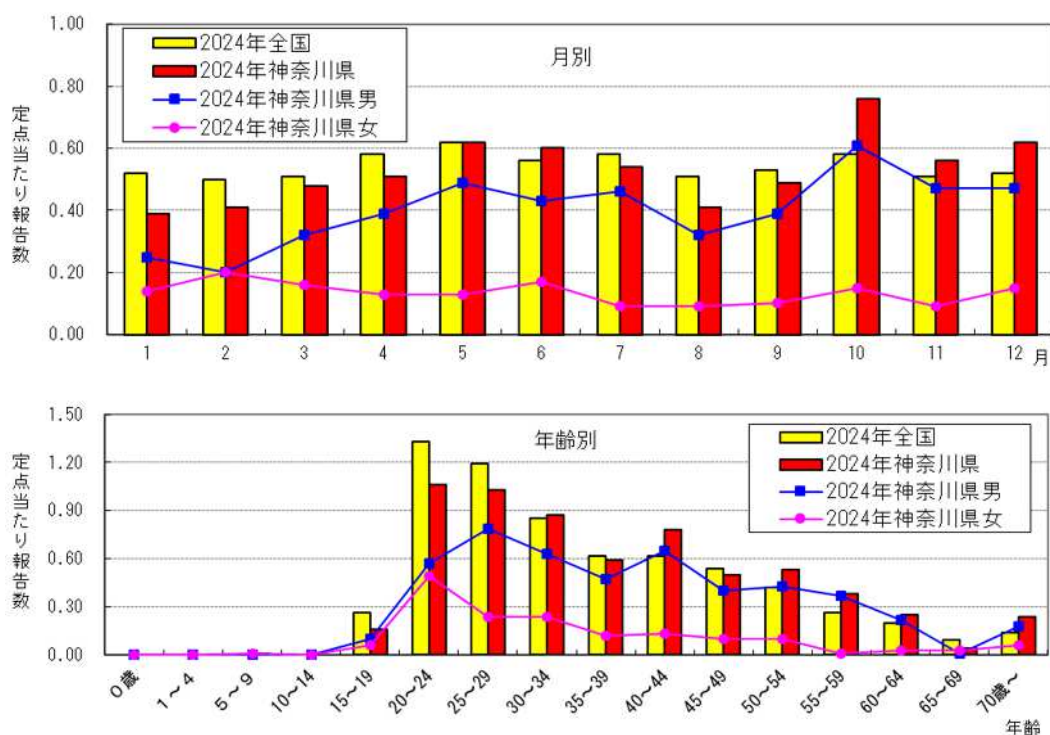
性器ヘルペスウイルス感染症

全国と比較して神奈川県の定点当たり報告数は少なかった。年齢別では、20 歳代以上の幅広い年齢層で報告がみられた。



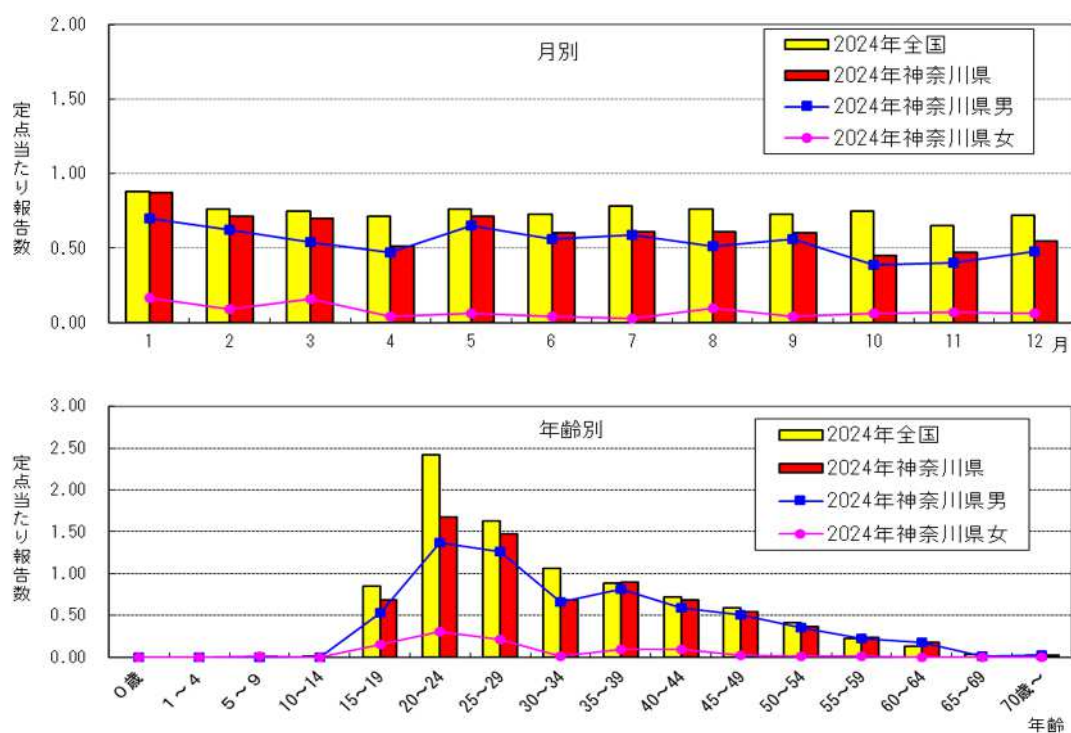
尖圭コンジローマ

神奈川県は定点当たり報告数は全国と同程度であった。年齢別では、男性は20歳代後半と40歳代前半を中心に、女性は20歳代前半を中心に報告がみられた。



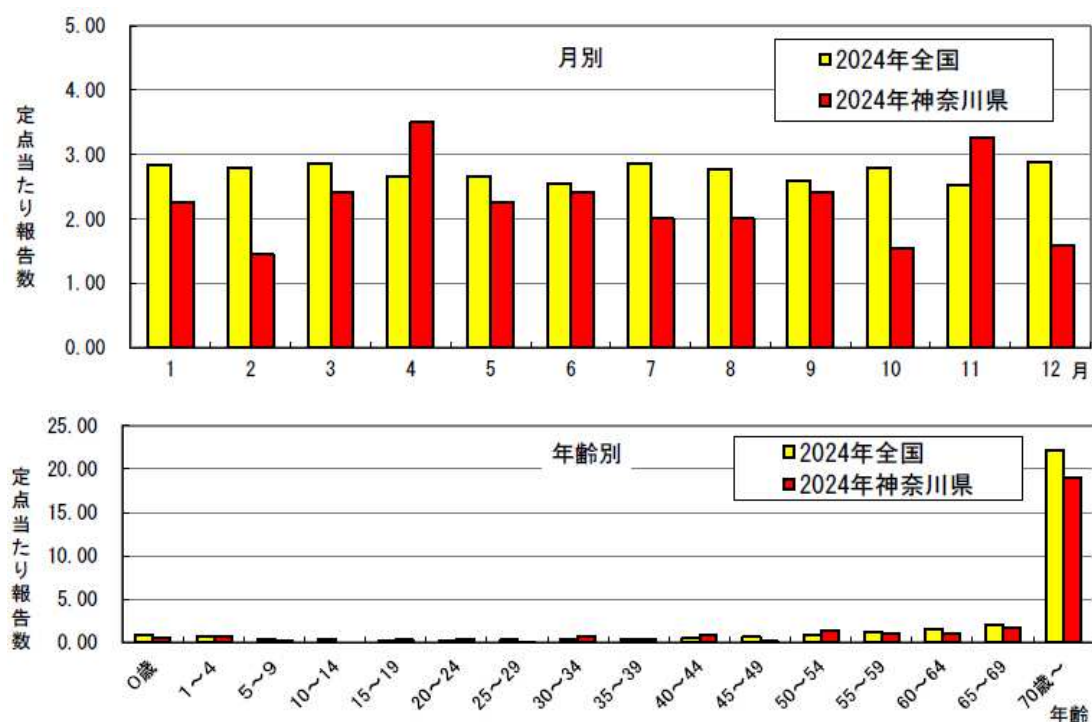
淋菌感染症

全国と比較して神奈川県の定点当たり報告数は少なかった。男性では20歳代前半をピークに幅広い年齢層で報告がみられたが、女性では報告が少なかった。



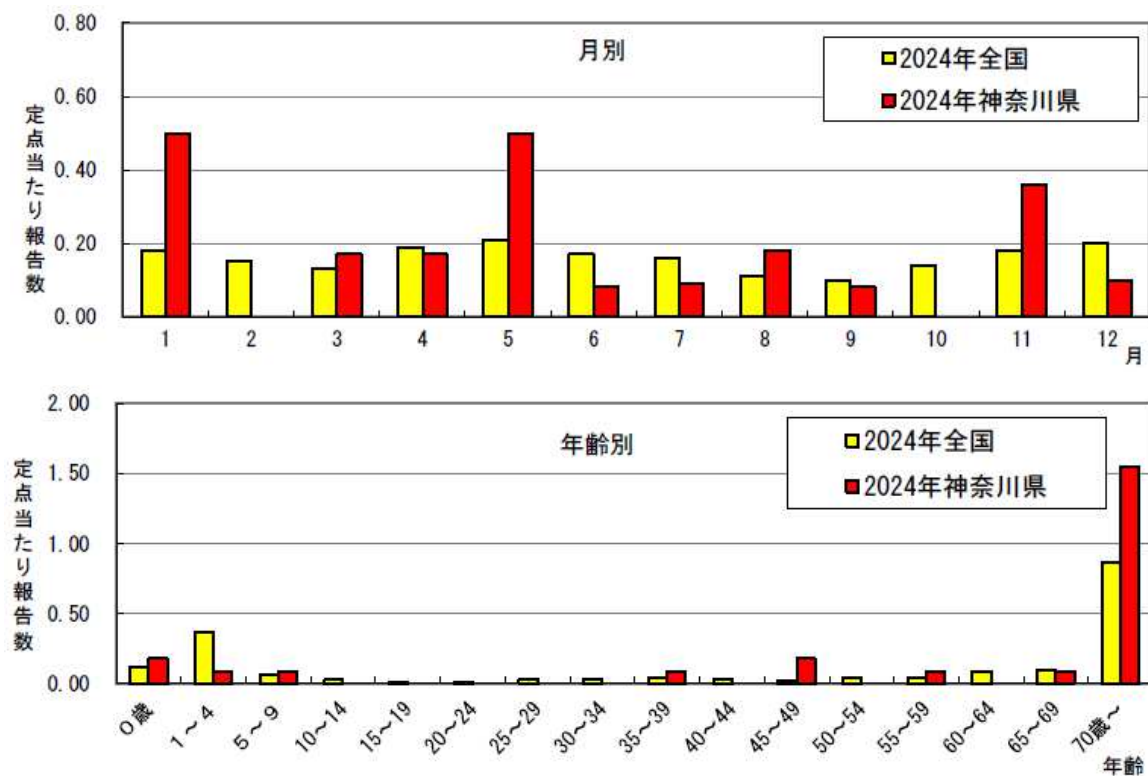
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

4月と11月を除いて、全国より神奈川県の出発点あたり報告数は少なかった。年間の報告数は315件であった。年齢別では、70歳以上で報告が多かった。



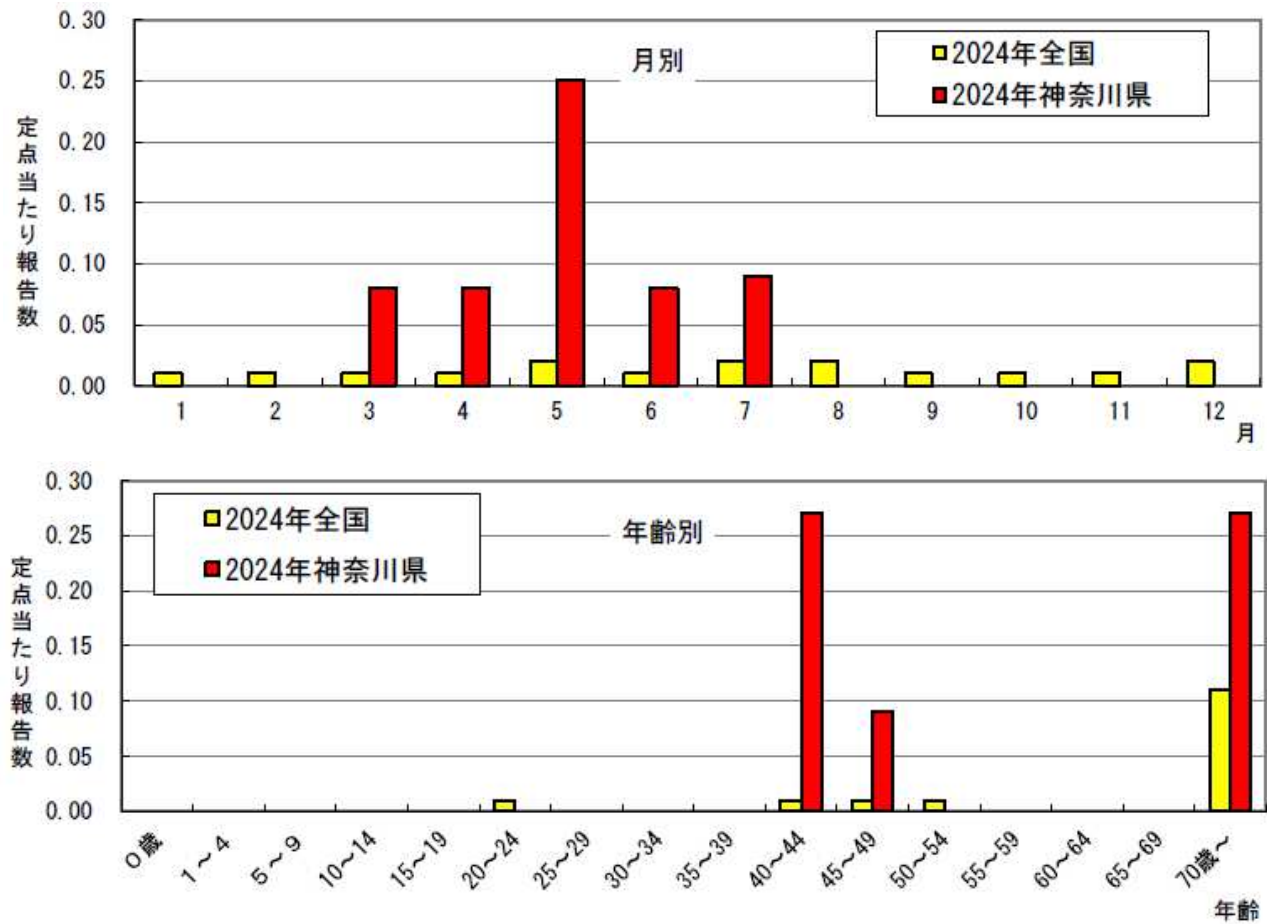
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

神奈川県では1月、5月、11月に定出点あたり報告数が多かったが、報告のない月もあり、年間の報告数は26件であった。年齢別では、70歳以上で報告が多かった。



薬剤耐性緑膿菌感染症

神奈川県では 3～7 月に報告があり、年間の報告数は 7 件であった。年齢別では、40 歳代と 70 歳以上で報告がみられた。



3 トピックス

(1) マイコプラズマ肺炎について

ア 神奈川県内 マイコプラズマ肺炎の報告数

図1 マイコプラズマ肺炎 週別報告数 全県

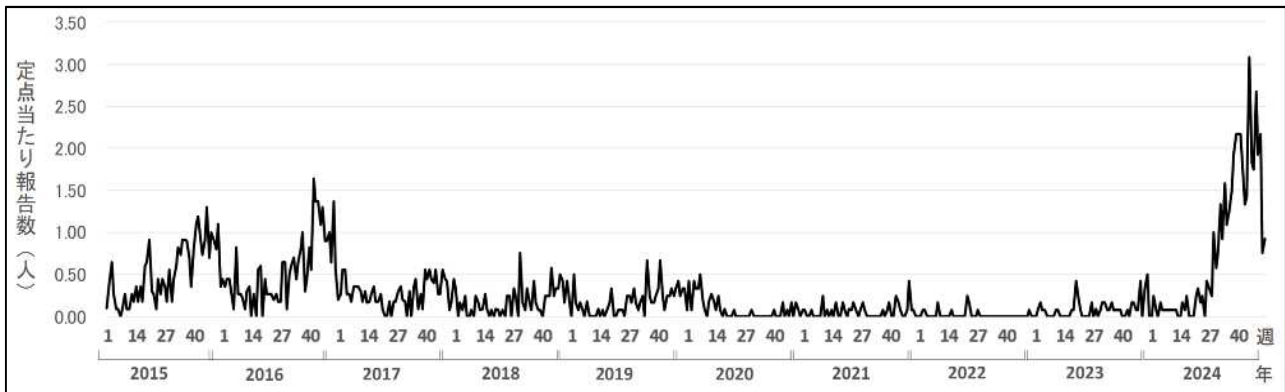


図2 マイコプラズマ肺炎患者年齢分布の年別比較

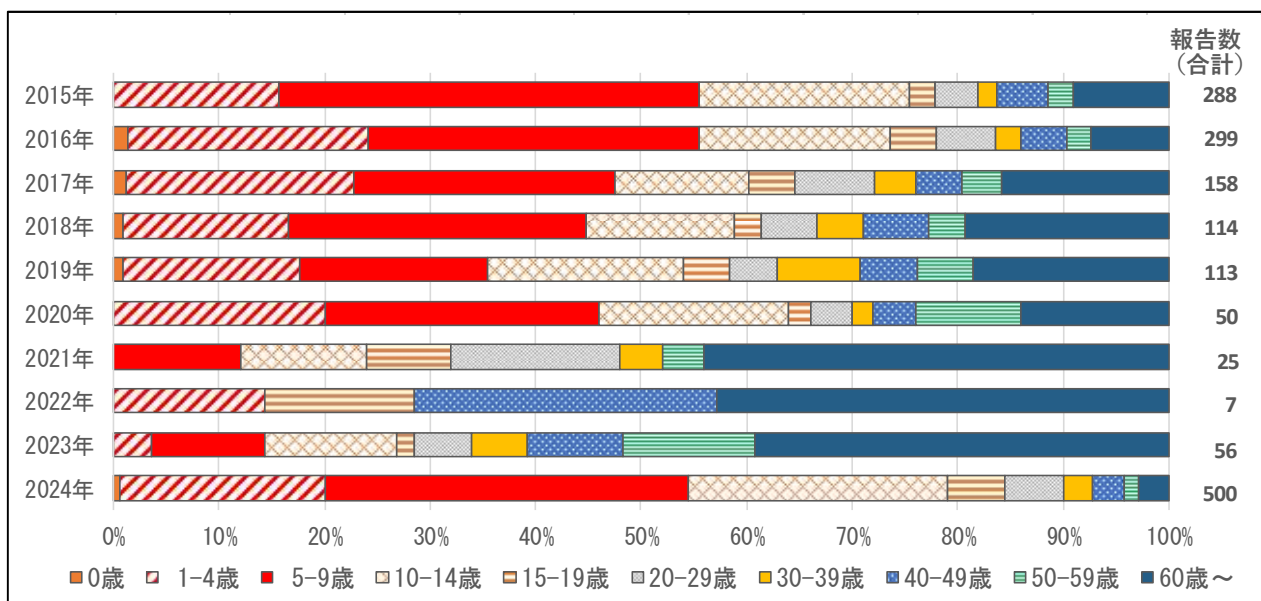
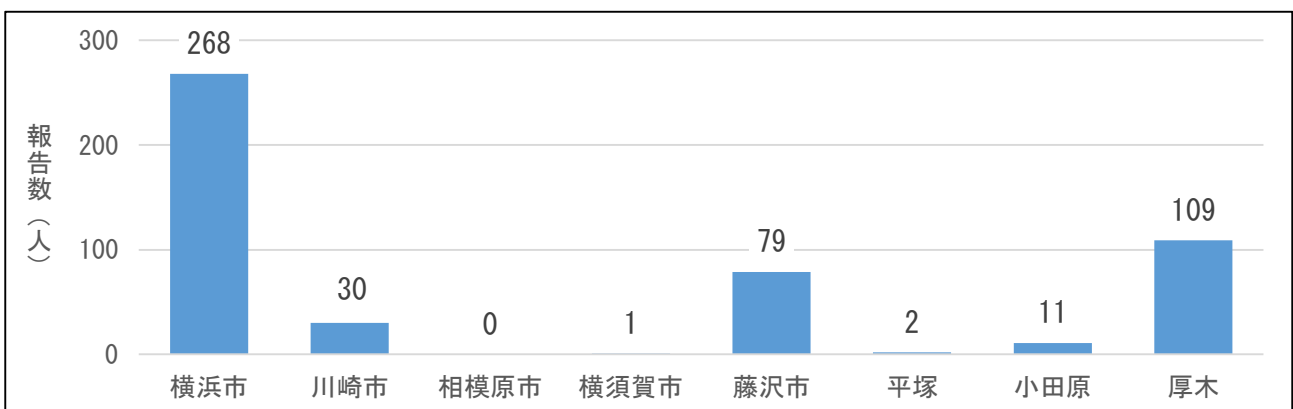


図3 保健所別マイコプラズマ肺炎患者報告数



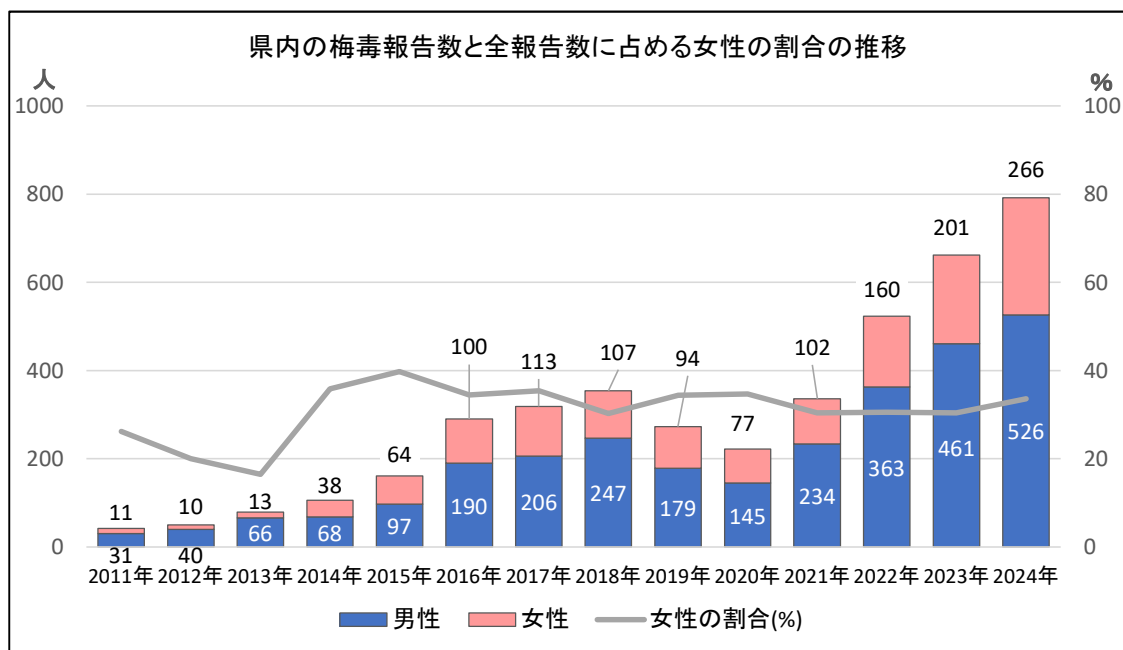
基幹定点医療機関数				
県域※	横浜市	川崎市	相模原市	計
5	4	2	1	12

※ 横須賀市、藤沢市、平塚保健福祉事務所、
小田原保健福祉事務所、厚木保健福祉事務所

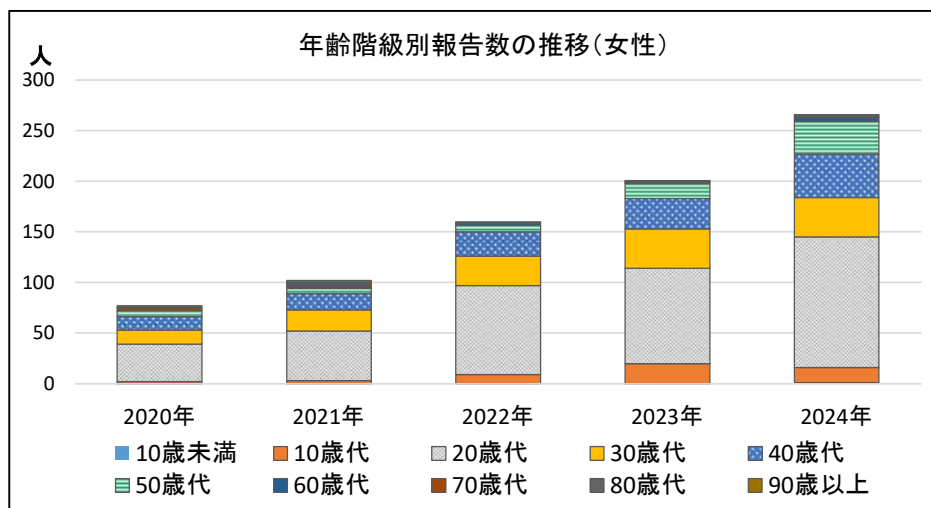
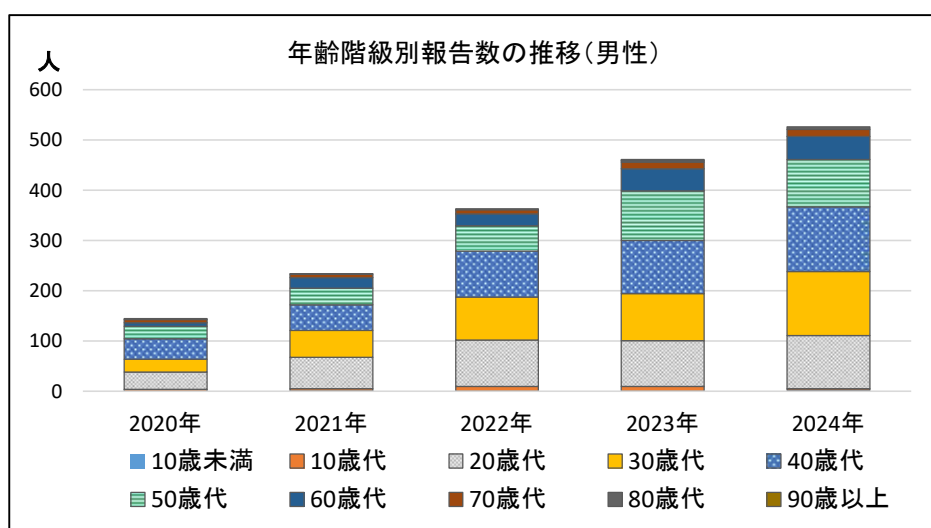
機関名	所管市町村
平塚保健福祉事務所	平塚市・秦野市・伊勢原市・大磯町・二宮町
鎌倉保健福祉事務所	鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町
小田原保健福祉事務所	小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町 南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町
厚木保健福祉事務所	厚木市・海老名市・座間市・大和市・綾瀬市・愛川町・清川村
茅ヶ崎市保健所	茅ヶ崎市・寒川町

(2) 梅毒について

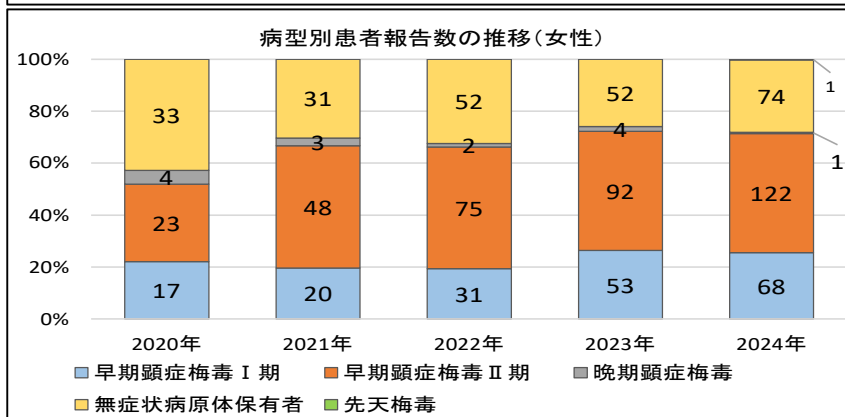
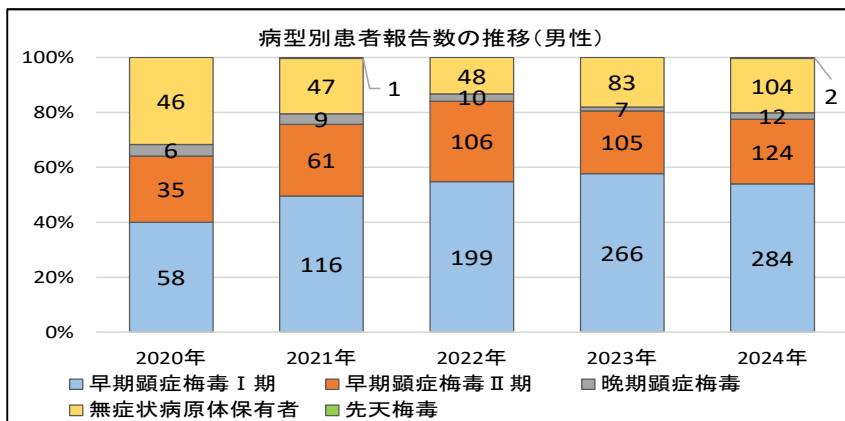
ア 神奈川県内 梅毒報告数の推移



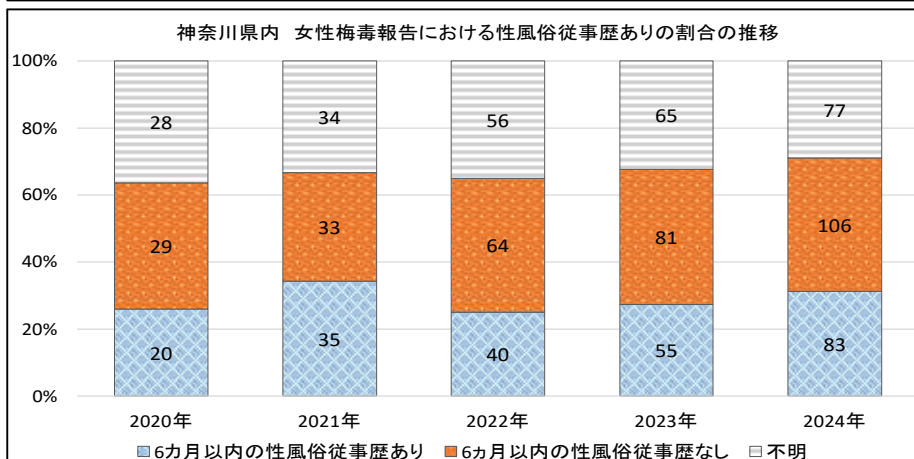
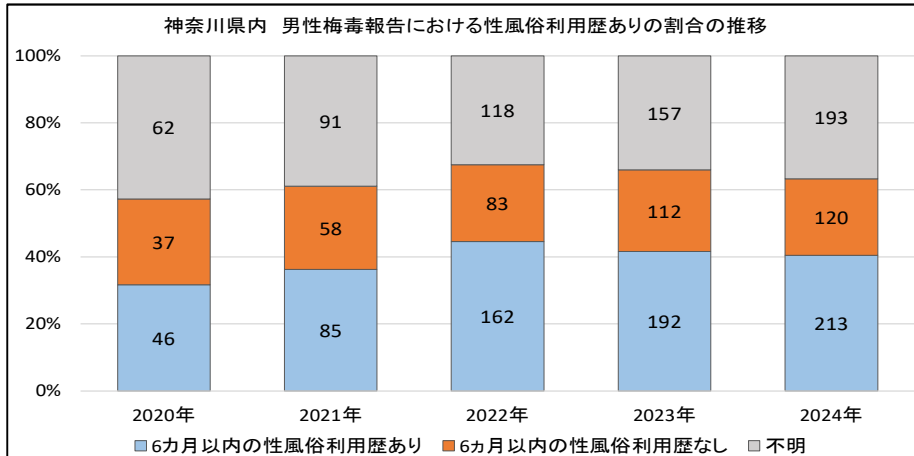
イ 年齢階級別 報告数推移



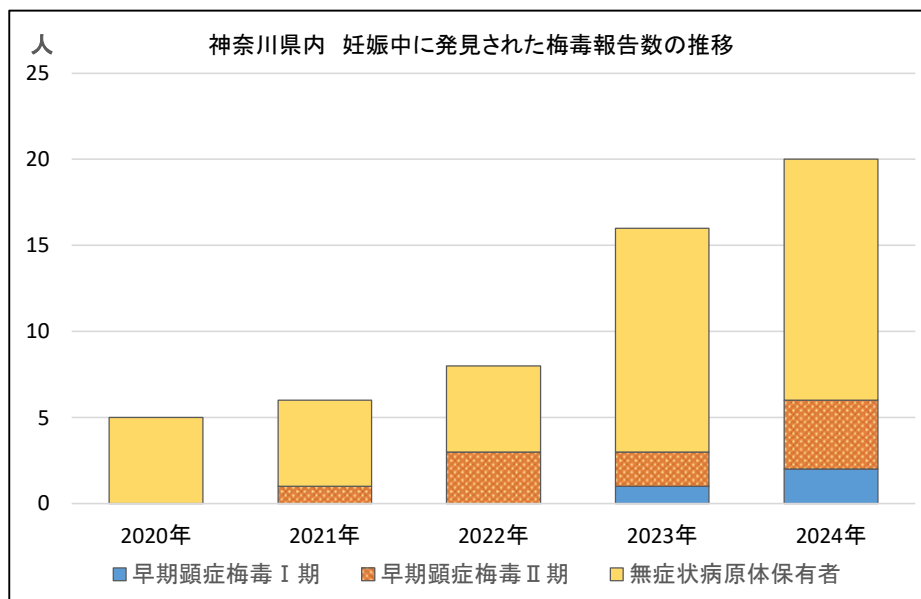
ウ 病型別 報告数の推移 ※先天梅毒：2019年男児2例、女児1例、2021年男児1例



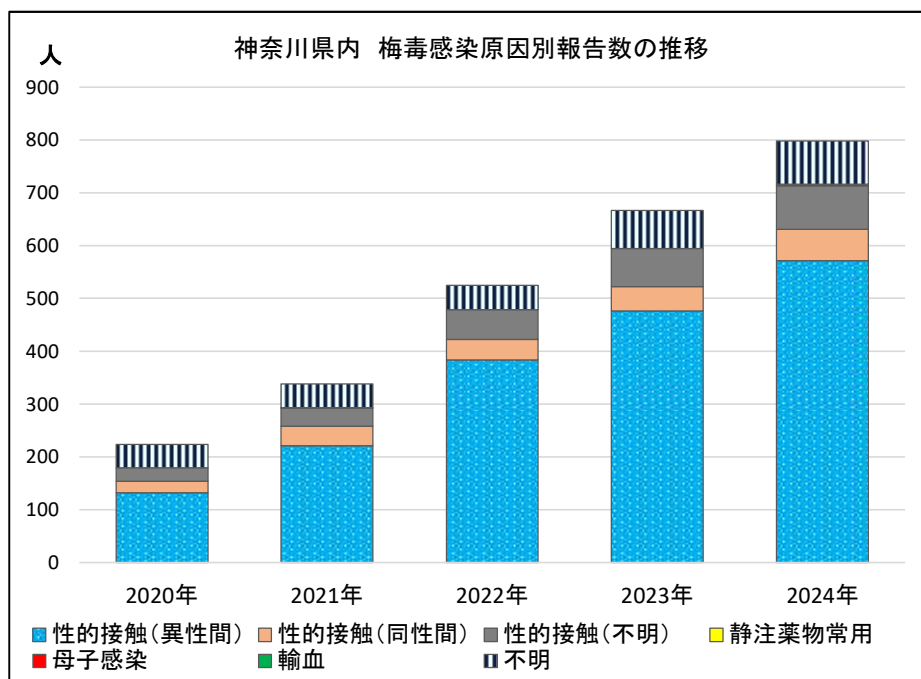
エ 性風俗利用歴(男性)と従事歴(女性)



オ 妊娠中に発見された梅毒



カ 感染原因・感染経路別報告数の推移



	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
性的接触（異性間）	132	221	384	476	571
性的接触（同性間）	22	37	38	46	60
性的接触（不明）	25	34	57	72	82
静注薬物常用	0	0	0	0	0
母子感染	0	1	0	0	3
輸血	0	0	0	0	0
不明	45	45	46	72	82

※性的接触（異性間）及び性的接触（同性間）が、2020 年：2 名、2021 年：2 名、2022 年：2 名、2023 年：4 名、2024 年：6 名いたため、グラフ及び表の総数が、報告総数と異なる。

資料

全数把握対象疾患保健所別累積報告数（神奈川県）

【令和7（2025）年 1月10日現在 感染症発生動向調査による】

	総計	二類	三類感染症					四類感染症															五類感染症																				
		結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	エムボックス	オウム病	重症熱性血小板減少症候群	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ボツリヌス症	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻疹	薬剤耐性アシネタ・バクター感染症	
2018年総数	4606	1590		15	300	2		46	95					15	22			1	1	114	2	77	17	233	8	36	18	56	76	6	35	1	225	53	354	11	5	4	766	414	6	2	
2019年総数	4039	1485	1	3	189	6	2	49	41			1		21	36			6		152		81	20	207	3	65	11	71	71	3	38	6	206	41	273	12	3	2	548	292	94		
2020年総数	2359	1163		3	173	1	1	39	7	1				29	1			3		113	1	54	17	122	2	32	4	49	65	2	22		104	27	222	5	5	7	75	9	1		
2021年総数	2382	1103			254			62	4	1		1		17	2		1			108		58	17	123	1	17	7	40	67	3	12		91	18	336	12	5	1	20	1			
2022年総数	2477	1013			224	1	1	67	8		1			26	7	3		1		116	1	40	20	126	4	27	12	57	39		13		84	29	523	8	3	2	17	1	1	2	
2023年総数	2879	965		4	327	3	2	64	5		5		1	12	17	1		2	1	144		46	16	129	3	41	7	66	49	3	48		137	49	662	11	5	2	48	2	1	1	
2024年総数	3310	987		13	216	5		58	8		2			14	13	2	2	1		152		42	13	171	5	30	8	129	64		45	3	214	36	792	9	9	2	264			1	
横浜市	1319	409		8	102	2		22	4		2			2	1			1		48		14	3	53	2	12	3	42	33		10	1	81	12	350		4	1	96			1	
川崎市	796	207		2	48	1		10						1	6		2			27		11	5	64	2	15	3	21	16		14	1	41	7	166	2	1	1	122				
相模原市	202	76			1			5						1	1	1				28		3	2	12				6	2				11	3	37	2	1		10				
県域	993	295		3	65	2		21	4					10	5	1				49		14	3	42	1	3	2	60	13		21	1	81	14	239	5	3		36				
横須賀市	143	28			9	1		12												10		3		14	1			8	4		2		17	1	28	1			4				
藤沢市	178	50			15				1						2					11		1		10		2		11	2		6		16	2	36		1		12				
茅ヶ崎市	60	17			2				1											5		1	1					1	1		1		4	4	16				6				
平塚	96	29			3			1									1			4		2		4		1	1	12			1		13		23	1							
秦野センター	118	42			6			4	1					4	2					4		3		5				1	8	2		1		5		24	1	1		4			
鎌倉	84	29			7			2	1					1	1					1		1	1	3				7	2				10	2	13	1	1		1				
三崎センター	6	3			2																																		1				
小田原	60	22		1	8									1						9				3					1				2		13								
足柄上センター	22	4			2									3									2									1		2		8							
厚木	147	38			6	1								1						5		3	1	1				8	1		8		6	1	61				6				
大和センター	79	33		2	5			2																				5				1	1	6	4	17	1			2			

新型コロナウイルス感染症流行以前の神奈川県全県の報告数

新型コロナウイルス感染症流行以降の神奈川県全県の報告数

2023年、2024年の神奈川県全県の報告数

2024年の神奈川県域の報告数



神奈川県衛生研究所

茅ヶ崎市下町屋 1 - 3 - 1

〒253-0087 電話 0467-83-4400（代表）